

# 2022年度業務実績報告書

## 参考資料

2023年6月

愛知県公立大学法人

	ページ	関連項目番号
<b>【県立大学】</b>		
1 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」	・・・ P 1	1,2,3,8
2 「iCoToBa Nexus」プロジェクト	・・・ P 5	3
3 学士課程における新教育プログラム	・・・ P 6	4,6
4 eポートフォリオシステム	・・・ P 8	4
5 コミュニティ通訳学コース	・・・ P 9	5,6
6 学長特別教員研究費	・・・ P 10	18
7 愛県大アカデミックデイ	・・・ P 11	18
8 愛知県との連携に関する取組	・・・ P 12	22
9 県内市町村との連携事業(MAPU)	・・・ P 13	22
10 ICTリカレントコンシェルジュ	・・・ P 14	23
11 国際戦略方針に基づくアクションプラン	・・・ P 15	26
<b>【芸術大学】</b>		
12 名古屋工業大学との「アートフルキャンパス構想」	・・・ P 16	30,41
13 領域を超えた授業科目の連携(異分野のコラボレーション教育)	・・・ P 18	30
14 アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業	・・・ P 19	30,39
15 アウトリーチプロジェクト	・・・ P 21	32,42
16 美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻	・・・ P 23	33
17 芸術大学におけるキャリア支援	・・・ P 24	36
18 教員による芸術・研究活動の主な実績	・・・ P 25	39
19 企業、研究機関などとの連携、共同研究	・・・ P 31	40
20 あいち2022芸術大学連携プロジェクト	・・・ P 33	41
21 あいちアール・ブリュット シンポジウム	・・・ P 34	41
22 収蔵品展・収蔵品の他機関への貸出件数	・・・ P 35	42
23 サテライトギャラリー SA・KURA	・・・ P 37	43
24 芸術大学におけるブランディング・知名度向上に向けた取組	・・・ P 38	45
<b>【法人運営】</b>		
25 トップマネジメントによる予算配分	・・・ P 40	46
26 2大学による連携事業	・・・ P 42	48,55
27 県との連携事業	・・・ P 43	48
28 事務職員の育成(海外・他機関派遣研修)	・・・ P 44	52
29 コロナ対策本部会議	・・・ P 47	61

## 1. 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」

【県立大学】

### (概 要)

教養教育を学ぶることこそ大学の特徴であるという考えを基礎に、「県大世界あいち学」という愛称のもとに、2021年度から新カリキュラムを開始しました。愛知に根ざしたグローバルな視野での学び、専門教育と表裏の関係での複眼的、領域横断的な知的基盤の獲得、予測困難な新時代を生き抜く人間力の涵養、といった考えのもとに学部間連携を主軸に自治体・産業界等との連携を組み込んだ科目編成と教授体制で実施しています。特に世界の新情勢と愛知県の独自傾向を踏まえ、多文化・多言語への理解を通じた協働能力を涵養することとし、身近に必要性が認識されるポルトガル語教育に力点の一つを置いています。また、IT・AIなど技術革新の動向を踏まえてデータサイエンスなどの情報科学分野を重視しています。

特に、その中核をなす全学部連携科目4科目（APU 教養コア科目、APU 教養特別科目3科目のうち2科目）と複数学部連携科目4科目（APU 教養連携科目4科目）を以下の理念の中心と位置づけ、科目全体をこれに関連づけることで、教養教育の個性を生み出しました。第三期中期目標・計画の最終年度2024年度が新カリキュラムの完成年度となります。

### (理 念)

人をつなぎ世界を結ぶ、愛知に根ざしたグローバルな視野をもって、次のような活動ができる素養を育む。

- ・人間性と文化について科学的な思考によって価値の相対化ができる
- ・予測困難な事態にも対応しつつ主体的に社会性をもって行動できる
- ・人権尊重や国際平和の普遍的価値に照らし、学びの英知を地域社会へ還元できる

### (目 標)

教養教育の理念を達成するため、以下のような人間力の育成を目標とする。

- A) 基本的人権と国際平和の重要性を認識し、倫理観や正義感をもって行動できる。
- B) 国際社会とその多文化の諸価値を理解・尊重できる。
- C) 文化の違いを超えた相互理解のためのコミュニケーション能力と情報発信力をもつ。
- D) 課題解決のための合理的・論理的かつ批判的・創造的な思考力を有する。
- E) 事実を客観的に分析・理解し、数理的・客観的なデータ分析ができる。
- F) 専門分野を超えた総合的な視点と考えを深めることができる。
- G) ジェンダーやセクシュアリティ、また弱者やマイノリティーに適正な理解ができる。
- H) 生きる意味を自覚し、健康的な生活を探究しつつ将来を見据えることができる。
- I) 科学技術の発展と自然界の現状を理解することができる。
- J) 災害発生等の不測の事態に対処し、主体的に行動できる。

(科目構成の構造と概要)

○ **APU 教養コア科目** (2科目) として、「多文化社会への招待」※「データサイエンスへの招待」※を1年次必修とし、本学での学びの全容を理解しつつ主体的に選択できるように促し、情報科学による裏づけをも得られるようにした。5学部教員が連携し、5学部学生が領域を超えて学ぶ合う。

○ **4科目群**に編成し、それぞれの中心に **APU 教養連携科目** (4科目) として「グローバル社会の諸問題」※「エリアスタディーズ総論」※「ものづくりの現状と課題」※「いのちと防災の科学」※を置いた。【下記表】

○ **APU 教養特別科目** (3科目) として、「教養留学修得科目」「県大エッセンシャル」※「県大教養ゼミナール」※ (選択科目) を、フレキシブルかつ積上げ式科目として置いた。

○ 外国語・キャリア教育・スポーツ実践の諸科目も、教養教育全体に含み込み、教養教育の理念のもとにあることを明確にした。

※ 全学部連携科目 4科目と複数学部連携科目 4科目

○ **4科目群の構成**

(1) 世界を理解する： 多文化・多言語の実際を学び社会での協働に役立てる科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「グローバル社会の諸問題」として、外国語学部教員を中心に、年度ごとに設定するテーマに関係深い他学部教員が連携担当する。
多文化理解	触れたことのない文化や言語に接して自国の文化や言語を見つめ直し、グローバルな場面への備えを探る。「Global Vision Talks」「Japan's Interactions with Other Cultures」「Japan Seen from Outside」といった外国語授業を主とする。
外国語科目	英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語、日本語の各 I II と、「教養外国語ショートプログラム」を置く。
外国語セミナー	上級履修科目として英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の各セミナーを置く。

(2) 地域を掘り下げる： 愛知・日本・世界の諸地域を身近な生活に即して理解する科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「エリアスタディーズ総論」として、外国語学部と日本文化学部の教員が連携して、特定地域の歴史、社会、文学、文化など多角的に探る。
愛知・日本	愛知、東海地方、日本それぞれの文学、歴史、ことば、生活を地域に根ざした文化という観点から学ぶ。
諸地域研究	現代社会について注視しつつ、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカといった世界の歴史・文化を学ぶ。

(3) 社会に生きる： 現代社会の実相を学術的に探究しつつ身近な課題を見つめ直す科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「ものづくりの現状と課題」として、日本文化学部と情報科学部の教員が連携担当し、愛知のものづくり企業の協力のもと、チームでプロジェクトのテーマを設定しつつ、課題解決に取り組むプロジェクト型実践教育。
現代社会	私たちを取り巻く現代社会の仕組みや文化について、主に社会科学の手法を通して理解し、現実社会の課題を見つめつつその解決策を構想し、将来を展望して生き抜く力の基礎を培う。
キャリア・プランニング	1年次から4年次までの各段階に即して、本学で学ぶ意義を卒業後の人生行路との関係で構想する、積上げ式のキャリア教育科目群。愛知地域の産業動向や、卒業生の活躍現場などを参照する。

(4) 科学と人間を深める： 人間知の科学的探究力と心身豊かな人間性を涵養する科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「いのちと防災の科学」として、教育福祉学部と看護学部の教員が連携担当し、防災・減災のための知識やスキルを学ぶと同時に、医療・教育、福祉、心理の観点からさまざまな立場の人のいのちを守ることにについて思考を深める。
自然科学	自然現象と人類科学から見出される普遍的な法則性探究の歴史を背景に、私たちを取り巻く現在と今後の課題解決について考える。
人文科学	哲学、心理学、文学、芸術鑑賞・表現に関わる人間諸活動の叡智に触れ、人類の文化や歴史の本質と価値を探りつつ自らを省察する。
情報科学	IT・AIなどの技術革新の動向を見きわめ、情報科学の技術と倫理を身につけ、次世代を展望しつつ主体的に生きる方法を身につける。
スポーツ・健康科学	生き方と心身との関係、健康づくりの科学的方法、などを学術的・実践的に学び、主体的な生涯スポーツ実践たることを目指す。

(「データサイエンスへの招待」における授業改善のための外部評価アンケートについて)

2021年度に開講した「データサイエンスへの招待」において、今後の授業改善のため民間企業を対象とした外部評価アンケートを実施しました。

アンケート結果は個々の項目については僅差がありますが、本科目全般的な取組みについては、最大5.0ポイントにおいて4.3ポイントであったため、また、開始1年目での評価であることもふまえて、プログラム全体を変更することはしませんでした。しかし、自由記述欄に複数あった「実データを扱う頻度」への懸念をふまえ、全授業で全学生がPCを使用しながら受講できる教室を確保して授業を実施しました。また、「データ分析においては、単に有意差の発見

と自己流の解釈に走る恐れがある」ことへの懸念も複数出されたので、データの自己流解釈の危険性をあつかうグループワークも導入しました。

## 2. 「iCoToBa Nexus」プロジェクト

【県立大学】

### (概 要)

社会との連携に役立つ語学運用能力やコミュニケーション能力の向上を支援するため、正規の課程外の学習プロジェクトとして、2023年度より開始することを決定しました。

地域貢献と発信型教育を目指す同プロジェクトは、大学院国際文化研究科コミュニティ通訳学コースと連携し、災害時を含む公共サービスにおける実践的な通訳訓練を行うことを目的としたプログラムと、現代の視聴覚メディアを利用して、地域社会の課題解決を提案するメディア・プロダクションを行うプログラムとの、二つの軸からなるプログラムを立案しました。

#### ・「コミュニティ通訳入門講座」

国際文化研究科コミュニティ通訳学コースとの連携により、日本人学生、留学生がともに参加して、災害時に外国籍住民を支援することを目的とした多言語支援センターを立ち上げるために必要なコミュニティ通訳・翻訳のノウハウを学びます。

#### ・発信型メディア講座

##### — メディア制作ラボ (Language Media and Culture Laboratory)

学生主導で、世界や地域の課題を発見し、その解決策を検討し、その成果を動画などのメディア作成を通じて世界や地域社会に向けて発信

##### — 文化批評・メディア批評講座

上記メディア制作ラボと並行して、新メディアに関する倫理や批評的視座を獲得することを目的とする。毎回テーマを変えながら、さまざまな文化的ジャンルを横断的に扱う討議型講座

### 3. 学士課程における新教育プログラム

【県立大学】

(概 要)

#### (1) 外国語学部新教育プログラム

2023 年度入学生より実施する外国語学部新教育プログラムでは、ポルトガル語の専攻言語化により、外国語に関する学びの充実をはかると同時に、学問的なアプローチの面で、学生による自由な専門性形成を支援する学部共通科目の仕組みを導入します。さらに、公立大学として最も多くの専攻言語を有する本学外国語学部の強みをいかして、複数の言語・言語圏の間に生起する課題について学ぶ多言語社会課程を設置します。

##### ・ポルトガル語の専攻言語化

既存の 5 言語に加えてポルトガル語を専攻言語として選択できるよう、スペイン語圏専攻をスペイン語・ポルトガル語圏専攻に改編します。これにより、愛知という地域への外国語学部のコミットメントを示すと同時に、スペイン語とポルトガル語を新しい専攻の両輪として、ヨーロッパとラテンアメリカに跨る両言語圏に関する専門的な学びを提供します。

##### ・学部共通専門科目の設置

学生が学問の基礎や方法を学び、自分の問題関心に照らして専門性を高められるよう、全学科・専攻に共通する学部共通科目を開設します。教養教育を補完しつつ、言語研究、歴史・文化論、多言語・多文化社会、国際社会、市民社会・地域社会、アジア・新興国の 6 つの領域を深める学部共通科目は、各言語・言語圏の学びの理論的支えとなります。

##### ・学部共通英語科目の導入

外国語学部の全学科・専攻の学生が選択できる専門教育の英語科目として、アカデミックな英語に重点を置いた「学部共通英語科目」を導入します。これにより、英米学科と国際関係学科以外の学生も教養英語を発展させて継続的に英語を学べるようになります。

##### ・3・4 年次の多言語社会課程

外国語学部では、学士プログラムを補完する学修として、国際政治経済や国際協力を通じた日本・愛知と世界の繋がりについて学ぶアジア・新興国プログラムを運用してきました。それを土台に今後は、日本やアジアをはじめ、多言語社会の課題に焦点を当てる課程を学士プログラムの一部に位置づけ、全学科・専攻の学生が選択可能な 3・4 年次の専門コースとします。

#### (2) 教育福祉学部新教育プログラム「愛知地域共生教育プログラム」

教育と社会福祉のみならず、日本と海外の思想、文化や制度を学際的に学ぶことで、人間の尊厳や発達に基づいた価値観を向上させ、地域の教育・福祉の複雑な諸課題について、グローバルで広い、総合的な視野から専門性を発揮しつつ多様な人々や他職種と協働して問題を解決し、探究しようとする力を身に付けることができるように、本プログラムを設置しました

5 学部構成の本学の特徴を活かした、他学部・他学科連携による横断カリキュラムであり、「多文化共生」「国際文化」「福祉・健康」「教育・保育・心理」「政治・経済・現代社会」「実習」「正課外活動」の 7 つの分野の中から、学生の進路や希望に応じて身につける。

免許・資格に必要な科目にとらわれずに、プログラムに揚げられた科目・活動から、自主的に必要な単位数（合計 20 単位以上）を修得した者に、修了証を発行し、地域共生の専門的力量を



備えていることを証明します。

なおプログラムの修了にあたっては、学外の教育の場と携した科目「教育臨床」「教育現場学習」や、正課外活動としての学習支援、国際交流、自主企画研究等も、修得単位とすることができます。

## 4. eポートフォリオシステム

【県立大学】

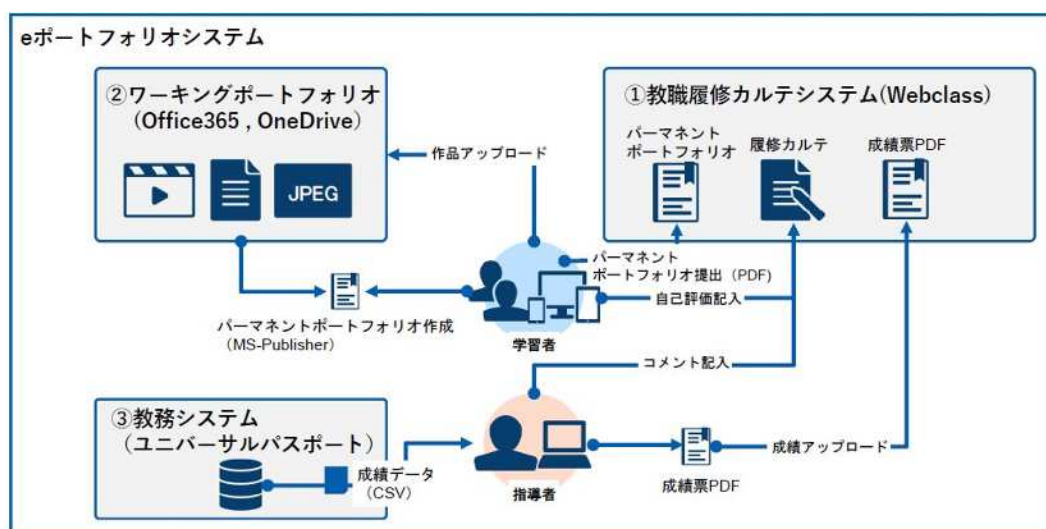
### (概要)

ポートフォリオは学びの成果をまとめたファイルのことです。学修について、そのプロセスも含めて記録・可視化することで、学生が学びの成果を確認し、学修計画の修正や立案に役立てるとともに、教員も学生の学修状況を踏まえた評価や指導を行うことが可能となります。ポートフォリオは学修者本位の教育や教育の内部質保証において重要なツールと言えます。

eポートフォリオシステムは、ポートフォリオや学修記録をオンライン上のシステムで電子的に管理することで、学びと教育の更なる充実及び学生と教職員双方にとっての利便性の向上を目指すものです。本学においては、教員免許状の取得を目指す教職課程を履修する学生（2020年度入学者（新4年生）及び2021年度入学者（新3年生））を対象として、教職eポートフォリオシステムを先行導入します。

当該システムは「①履修カルテシステム」と「②ポートフォリオシステム」から成ります。①は、学習や活動の記録や振り返り等を記入するためのもので、既存のLMS製品（Webclass）を利用します。履修カルテシステムでは、教務システムより出力した成績データを読み込ませることで、関連科目の成績を一覧で確認したり、レーダーチャートによる視覚的な振り返りも可能となっています。

②は、学修の成果物をまとめ、閲覧するためのものです。こちらは、既に紙媒体のポートフォリオを導入している小学校コース（教育福祉学部教育発達学科）の学生のみを対象としています。教職課程の学修では、レポートやノート等のテキストを中心としたファイルだけでなく、作品の画像や模擬授業の動画など多様なフォーマットによる成果物があり得ます。これらを容易且つ包括的に扱えるLMS製品が存在しないことから、Office365製品を利用した独自のポートフォリオシステムを構築しました。実際の作品集のように閲覧できるポートフォリオとなっていることが特徴です。



## 5. コミュニティ通訳学コース

【県立大学】

### (概 要)

コミュニティ通訳は、医療、司法、教育、行政、福祉等の領域で実践され、外国籍住民など、日本語を母語としない人の基本的人権を保障するために必要な通訳です。

愛知県に暮らす外国籍住民は、約 28 万人で東京都（約 57 万人）に次いで全国第 2 位であり（2022 年 6 月時点）、役所、病院、学校、警察、雇用相談、法律相談、防犯・防災活動など、さまざまな場面で多言語対応が求められています。コミュニティ通訳には語学力に加えて関連分野の知識や高い倫理観が求められ、その指導を行える人材は限られているにもかかわらず、体系的な教育を行っている大学はほとんどありません。

こうした現状を踏まえ、コミュニティ通訳に関する知識やスキルを体系的に学び、高い専門性を有する人材を育成することを目的として、国際文化研究科国際文化専攻にコミュニティ通訳学コースを設置しました。

### (育成する人材像)

1. 専門性を持つプロフェッショナルなコミュニティ通訳者  
(医療、司法、教育、行政、福祉等の分野で必要な知識、異文化理解力、通訳者倫理を身につけた専門家)
2. コミュニティ通訳コーディネーター  
(専門知識と語学力を持ち、通訳者とユーザーの間を調整し、社会インフラとしてのコミュニティ通訳を効果的に機能させる人)
3. コミュニティ通訳分野における指導者、研究者となる人

### (コースの特徴)

カリキュラムには「理論」「実践」「研究者としての能力」の 3 要素を含み、多文化共生論、現場実務に関する知識、事例研究を含むコミュニティ通訳研究、言語別演習、実務実習、アカデミック・プレゼンテーションに関する科目があります。主な指導言語は日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語で、人間発達学研究科や看護学研究科の一部科目を履修することも可能です。通訳現場の実務的知識を身につけるため、愛知県教育委員会、医師会、弁護士会、愛知県警等からの講師派遣のほか、名古屋地方検察庁において検察官からの説明、名古屋地方裁判所において要通訳裁判の傍聴および裁判官からの説明を受けるなど、外部機関と連携した授業も実施しています。さらに、遠隔通訳や機械・AI 翻訳などテクノロジーの活用と倫理も学びます。

複数の大学院生と教授陣で構成する「合同ゼミ」において、修士論文（または特定課題研究成果）の執筆に向けた指導を行います。また夜間や土曜日、オンライン等も指導に活用することで社会人にも配慮しています。

## 6. 学長特別教員研究費

【県立大学】

### (概 要)

専任教員の学術研究を奨励し大学の発展に寄与するため、学長が予算の範囲内で選考・交付する学内の競争的研究費です。独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業に応募し、不採択となった者を対象とする「科研費採択奨励研究」、従来の自身の研究とは異なる新しいテーマに挑戦する者を対象とする「チャレンジ研究」、本学の特色や強みを打ち出すことを目的とした研究を推進する「地域課題研究」の区分で計6件の採択を行ったほか、学内の分野横断的共同研究や産学公連携による研究を推進する者を対象とする「学部間連携・産学公連携研究」の区分では4件の採択を行いました。

### (「学部間連携・産学公連携研究」採択実績)

#### (1) 人とロボットの共生・協調のための次世代ロボットに関する研究

研究者：看護学部教員、情報科学部教員

採択区分：学部間連携

採択金額：1,894千円

内 容：人とロボット、あるいはロボットとロボットの自律的、協調的な動作の実現を目指し、インタラクション関連技術、三次元センシング技術等の基盤的要素技術の研究開発を推進する。

#### (2) 学習者の困惑状態に応じて学習支援を提供する教育支援ロボット(Rapi-bot)の開発

研究者：情報科学部、教育福祉学部教員、愛知県立芸術大学美術学部教員

採択区分：学部間連携

採択金額：2,353千円

内 容：家庭学習における学習者の応用力と探求心の向上を目的とし、学習者の表情から感情を認識しながら学習支援を提供する独自の教育支援ロボットを開発する。

#### (3) 三河・遠江のモノ・ヒトの往来をめぐる地域研究

研究者：日本文化学部教員、県内自治体、公的研究機関

採択区分：産学公連携

採択金額：597千円

内 容：三河と遠江を中心とした書物などの文物の移動を調査、分析し、大学、博物館、寺院を拠点とした地域文化研究の土台を築くことを目的とする研究である。

#### (4) 多文化共生社会構築の課題および社会基盤形成にむけた基礎研究

—行政、言語支援、ソーシャルワーク、キャリア形成を中心に—

研究者：外国語学部、教育福祉学部、看護学部教員、他大学教員

採択区分：学部間連携・産学公連携

採択金額：326千円

内 容：①入国管理行政（多文化共生社会構築をめぐる歴史的・制度的考察）、②多文化共生社会における言語支援・コミュニティ通訳・ソーシャルワーク、③在留外国人および留学生のキャリア形成と雇用の3つの課題に取り組む。

## 7. 愛県大アカデミックデイ

【県立大学】

### (概 要)

従来、開催してきた「教員研究発表会」や「ポスター発表会」の企画を拡大し、2021年度から発足した新研究所・プロジェクトチームの研究成果報告と併せて「愛県大アカデミックデイ」という新企画として開催しました。

(Day 1 : 12月7日～13日・学内限定公開) 学術研究情報センター主催

方 式 : Teams によるオンライン開催

閲覧回数 : 延 355 回 (ただし9件のうち1件はカウント不可だったため8件分の回数)

内 容 : ○研究成果を広く共有する目的で実施する教員研究発表会 (9件)

備 考 : チャット欄を活用し、教職員と発表者が直接意見や質問をする機会を創出

(Day 2 : 3月1日～7日・学外にも公開) 地域連携センター主催

方 式 : オンデマンド (期間限定で動画を配信)

視聴数 : 455 回

内 容 : ○ドクターズ・リターン(本学で博士号を取得した研究者の、その後の研究を発表)

○教員による自由スタイルの研究発信

○研究所の共同研究成果発表

○退職記念発表

○150周年イベントに関するコンテンツ

○愛県大アカデミックデイ 2021 アーカイブ

備 考 : 愛知県生涯学習推進センターとの連携により、同センターを「愛県大アカデミックデイ 2022」の視聴会場として利用 (3月2日、3日、6日、7日の4日間)

## 8. 愛知県との連携に関する取組

【県立大学】

(概 要)

愛知県との連携（事業の共催、ボランティア活動の学生等への協力依頼、審議会等委員への就任、愛知県立大学のキャンパスの利用、イベントへの参加・出展等）を一層推進するために、愛知県庁 10 部局と地域連携に関する会合（訪問 2 回・来学 8 回・意見交換会 2 回）を実施しました。こうした会合の結果、2022 年度は以下の表の通り、事業の実施につながりました。

	形態	実施回数 (部局数)	新規に実施した共催事業・地域貢献活動(*4)	継続して実施した共催事業・地域貢献活動(*5)
地域連携に関する会合・共催事業等	訪問(*1)	2回(6部局)	(参考) 性暴力被害防止セミナー2023年7月実施予定	① あいちシルバーカレッジ専門コース ② 愛知県地域づくり活動フォーラム ③ 東部丘陵生態系ネットワーク協議会
	来学(*2)	8回(6部局)	① 愛県大アカデミックデイ視聴会場(生涯学習推進センター)	① 愛・地球博記念公園との連携活動 ② わくわく体験リニモツアーズ ③ あいち認知症パートナー大学 ④ 知の探究講座
	意見交換(*3)	2回(2部局) ① 県民生活部社会活動推進課 ② 福祉局児童家庭課		
	計	12回(10部局)	1件	

(\*1) 訪問：ニーズ把握のため地域連携センターが県の関連部署を訪問

(場合によってはオンライン会合)

(\*2) 来学：事業等の要請のため県の各部署が地域連携センターに来学

(場合によってはオンライン会合)

(\*3) 意見交換：県の関連部署と本学の複数の関連学部・研究所等が関わって、具体的な共催事業や地域貢献活動の実施に向けて検討するために設ける会合

(場合によってはオンライン会合)

(\*4) 共催事業・地域貢献活動：訪問・来学・意見交換会によって実現した、当該年度の新規共催事業あるいは地域貢献活動（協定締結、審議会委員等への協力、学生ボランティア活動は除く）

(\*5) 第三期中期計画期間中に実施した会合により開始し、当該年度も継続して実施した共催事業あるいは地域貢献活動

## 9. 県内市町村との連携事業 (MAPU)

【県立大学】

### (概 要)

「少子高齢化」や「人口減少」などの様々な地域課題が挙げられる中で、行政機関、教育機関、地域コミュニティ、ボランティア・NPO等の学外組織・団体から、大学に対して、課題解決への期待が寄せられています。これに対して、地域連携センターを中心に、教員の研究成果、経験知等を課題解決のヒントにつなげるために、市町村における課題を教職員とシェアする「場」(オンライン)を試行的に設けています。インタビュー形式で、組織・団体の皆様から直接課題についての具体的に説明をいただく機会として、「MAPU (マップ)」と称した意見交換会を開催しています。

### 第1回

日時：2022年8月2日(火)

開催方法：オンライン (Zoom ウェビナー)

タイトル：2022年度 MAPU# 知立市×愛知県立大学 ―知立市の課題を聴く会―

ゲスト：知立市企画政策課

概要：知立市職員から、「多文化共生」「DX」をテーマに現在抱えている課題について説明

### MAPU (マップ)

MAPU… Meeting on A Problem-solving Unit 又は Make A Problem-solving Unit の略。自治体の課題や連携希望等を取りまとめ、学内で共有しながらその解決を図る取組の呼称。また「Re」にあたる”R”をつけて、逆に学内の教職員から自治体や企業、団体等との連携希望を集約し、地域連携センターがその橋渡し(ハブ機能)として機能させる取組も計画している。

なお、2023年2月20日には知立市との包括連携協定を締結し、同市での教員・学生の教育研究活動を支援する環境を整備しました。

## 10. ICTリカレントコンシェルジュ

【県立大学】

### (概要)

情報科学部では2021年12月から、社会人、団体、企業等を対象とした「ICTリカレント教育コンシェルジュ」をスタートしました。

社会人の方々の場合、学習歴、背景知識、学習上の悩み、身につけているスキル、学習の目標等は多種多様と考えられます。したがって、学び直しにおいては、様々な学習の個性に合わせた学び方が不可欠と考えられることから、個別面談を通じたニーズの把握により、相談者に応じた適切な学びの提案を行うことを目指します。

2022年度は、以下のとおりサービスを実施しました。

### (2022年度の実施内容)

【方法】個人面談によるカウンセリング

【日時】毎週月曜日 15:00～18:10（1コマ30分）

【費用】無料

【場所】対面の場合：愛知県立大学長久手キャンパス  
遠隔の場合：オンライン（Zoomを使用）

【相談員】教員（情報科学部長）

【相談内容】①ICTリカレント教育についての相談

②愛知県立大学が提供している学ぶ制度の紹介

（学部・大学院入学制度、科目等履修生制度など）

③愛知県立大学で企画調整できる講座等の紹介、情報提供

【申込方法】専用メールフォームから申し込み

【相談件数】6件（団体3、企業3）



## 11. 国際戦略方針に基づくアクションプラン

【県立大学】

### (概要)

2019年の「国際戦略方針」に基づき、2020年には教育、研究、環境の3領域に跨る10項目のアクション対象分野を設定し、計41の活動から成る「アクションプラン」を公開しました。2022年度は次第に国際交流活動が再開されたことから、関連するアクションに取り組むとともに、アクションプランの2年間の達成状況に関する検証をおこないました。

#### (1) 海外留学と異文化間教育の活性化 (教育)

- I 異文化共感力を高めるための学内教育
- II 多様な文化的背景をもつ学生の受入と教育支援
- III 違いを認め合い国際平和に資する異文化間教育
- IV 充実した留学を実現するための体制

#### (2) 専門分野を横断する国際的研究への挑戦 (研究)

- V 国際学術交流の新展開
- VI 国境を越え専門を横断する研究体制
- VII 地域と共に生み出す多文化共生社会

#### (3) さらなる国際化を目指す大学づくり (環境)

- VIII 教職員の国際化とグローバル社会への対応能力
- IX 魅力ある大学国際戦略の策定と実行
- X 異文化間交流のための学内環境整備

(国際戦略方針に基づく2022年度の取組内容) \* (カッコ)内はアクション対象分野項目番号。

#### 1. 再開されつつある国際交流活動

危機管理の観点から、多言語対応の留学生支援体制は整えられつつあります(II)。今年度は筑波大学主催の日本留学海外拠点連携推進事業(南米)に採択され、ブラジルとペルーでの留学フェアに現地参加し、大学紹介や模擬授業をおこないました(IV)。韓国、タイ、スペインなどの協定校とオンラインで交流が実施され、ラオスやベトナムでは現地での研修や学術交流も再開されました(V)。海外の研究者を構成員に迎える学内の研究所(ICTテクノポリス研究所、人間の尊厳と平和のための人文社会研究所)では、スタートアップや人文社会の分野での定期的な交流が現地やオンラインで継続的におこなわれ、タシケント国立東洋学大学主催のオンライン国際会議では教員が研究成果を発表し、3年連続での参加となりました(V)。すでに連携関係にある在名古屋ブラジル総領事館やウズベキスタン大使館に加え、アイルランド、メキシコ、ポルトガルなどの大使館との関係も生まれつつあります。とりわけ、外交関係樹立30周年を記念して、ウズベキスタン政府が本学教員3名と6名の学生を同国に招聘した事業は、共同教育と国際交流を大きく進めるものとなりました(VII)。

#### 2. アクションプランの達成状況に関する中間報告

学内の各部局での積極的な取組みによって、かなりのアクションは着手されていますが、その具体的な展開や進展という点からは、なお取り組むべき課題が残っています。

## 12. 名古屋工業大学との「アートフルキャンパス構想」

【芸術大学】

### (概要)

本学は、名古屋工業大学と「アートフルキャンパス構想」を共創し、2021年度から「F+Project-御器所が丘にアートの風を-」と題したアートプロジェクトを実施しており、2022年4月に包括的連携に関する協定書を締結しました。

本構想は、名古屋工業大学において、『心で工学』のプラットフォームとしてのキャンパスづくりの一環として、アートによる風をキャンパス内に取り入れ、芸術に親しむことによって、学生及び教職員の豊かな感性を育む「アートフルキャンパス構想」と、愛知県立芸術大学による、現代の多様化した芸術表現が、社会とふれあう機会をより多く創出させたいという願いが一致して実現したものです。

### (内容)

- (1) 「F+ART」プロジェクトにおいて、名古屋工業大学のキャンパスに11点の作品（絵画、壁画、彫刻、版画、写真、インスタレーション、陶磁等）を設置。



- (2) 名工大ソーラーカー部と本学の学生が共同で作品を制作。



- (3) 名古屋工業大学の学生が本学教員の特別授業「紙漉き」を体験する特別体験プログラムを、本学にて開催。

- (4) 本学音楽学部教員が名古屋工業大学を会場とした音楽講座「【アートフルキャンパス】音楽プログラムの座学（対象：名工大大学院生）」を開催。

(5) 名工大アーティスト・イン・レジデンス・プログラム (2023 年度始動予定) のプレ企画として、本学出身の研究者が名古屋工業大学構内で壁画制作を実施。



### 13. 領域を超えた授業科目の連携（異分野のコラボレーション教育）

【芸術大学】

#### （概要）

各専攻の明快な特色に基づく実技・専門教育による魅力ある学部教育推進を目的として、美術学部と音楽学部の学生が合同で課題に取り組む授業を新たに実施することとし、美術学部陶磁専攻芸術表現コースと音楽学部作曲専攻作曲コースによる、合同授業を2021年度に引き続き実施しました。2022年度は上記両専攻に加えて、芸術学専攻、メディア専攻も指導に参加し合同授業内容が更に充実したものとなりました。

#### （特徴）

本学では、美術学部と音楽学部を併せ持つ総合芸術大学としての強みを生かし、美術と音楽の複合芸術プロジェクトとしてオペラ公演に注力し、本学の明快な特色に基づく実技・専門教育を実施してきました。昨年度より、その特色をさらに深化・強化させるための取り組みとして、各学部の必修授業において、2か月にわたる合同制作授業を実施することとし、美術と音楽の垣根を超えた異分野のコラボレーション教育を開始し、今年度はその内容を更に拡大させています。

#### （内容）

授業科目	美術学部：陶磁実技 III（担当：長井千春教授） 音楽学部：作曲理論 IIIB（担当：成本理香教授）
開講時期	2022年度後期（11月～12月）
対象年次	3年
授業目的・到達目標	（授業目的）専門分野を超えた創作のコラボレーションを経験する （到達目標）各専門分野の創作に新たなアプローチ法や視座の獲得を目指す
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、授業期間のプレ授業として前期7月に両専攻を見学し、各専攻の学生が、これまで創作した作品の発表会を実施</li> <li>・陶磁専攻と作曲専攻に関する基礎講義を担当教員が実施</li> <li>・各専攻の学生がペアとなり、それぞれの作品からインスピレーションを受けた新たな創作を2サイクル繰り返す</li> <li>・芸術学専攻教員による「音と芸術」に関する講義を実施</li> <li>・メディア専攻技術指導員のサポートのもと、学内音源を収集するフィールドレコードワークショップを実施</li> <li>・成果作品の全体講評会を2回実施</li> <li>・成果作品発表のための計画、広報プランの立案</li> <li>・成果作品の発表会の実施</li> </ul>
成果発表	<p>2022年4月に本授業の成果発表として、タイトル『レソナンシア/Resoncia II』のもとで合同演奏会および展覧会を開催。展示企画、リーフレット、ポスターデザイン等全て学生自身が計画実施予定。</p> <p>（日程等）</p> <p>合同課題発表展覧会 4月18日～20日 10:30～16:30 芸術資料館 合同課題発表演奏会 4月18日 18:30～ 室内楽ホール</p>

## 14. アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業

【芸術大学】

### (目 的)

アーティスト・イン・レジデンスは、国内外の著名なアーティスト等の滞在型招聘により、本学の学生・教職員と交流事業を実施し、本学の国際化、芸術創造能力の向上を図ることによって、広く国際交流・文化振興に寄与することを目的とし2007年度より実施しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、2021年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における本学の活動指針に則り、3名のアーティストを招聘しました。

また、韓国在住のアーティスト、キム・ミョンボム氏は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により来日を取りやめることになりましたが、代わりに新たな取組として、本来キム・ミョンボム氏が本学に滞在して制作する予定であった作品を、本人からの英文のメールによる遠隔指示によって本学の学生たちが代理で制作する「リモート・アーティストインレジデンス（AIR）・プロジェクト」実施し、サテライトギャラリーで展覧会も開催しました。（4月～6月）

アーティスト・イン・レジデンス事業では、一般公募も行い、フランス在住のアーティスト、ハルドラ・ミヨコ・マグヌスドッティル氏の企画を採択し招聘しました。滞在期間中にはアーティストトークや教員・学生を交えたワークショップを実施したほか、サテライトギャラリーにて成果発表展覧会を開催しました。（6月～9月）

また、2020年度に招聘予定だったドイツ在住の美術作家、マリエラ・モスラー氏（シュトゥットガルト美術アカデミー教授）をアーティスト・イン・レジデンス事業で今年度招聘しました。滞在時には「トラベル・ノート／シュトゥットガルト&愛知 2021-2022」をサテライトギャラリーにて開催し、会期中にはアーティストトークも行いました。（9月～10月）

国際交流事業としては、ベルリン芸術大学と国際交流ドローイング展を開催しました。展覧会は、各大学の施設において、相手方の学生の作品を展示する形式をとり、本学学生の選抜展は、ベルリン芸術大学にて1月に開催されました。（11月～1月）

ソウル市立大学との国際交流事業では、李允碩（リー・ユンソク）教授による学生たちに向けた卒業・修了制作展に展示する作品の講評や、サテライトギャラリーにて「米林雄一展／李允碩展 Solo Exhibitions by Yuichi Yonebayashi and Lee Yoon Seok」を開催しました。（1月）

外国人客員教員による事業は、複数名の演奏家や作曲家を外国人客員教授として長期（2年間）または短期（2～6ヶ月間）で招聘し、授業や交流事業を実施することで、世界水準を肌で感じられる音楽教育を行うことを目的としています。

### (内 容)

#### (1) 外国人客員教員（音楽分野4名）

- ・イリーナ・チュコフスカヤ（グネーシン音楽大学教授）

雇用期間：2021年4月1日～2023年3月31日（2019年度より継続）

- ・フェデリコ・アゴステイーニ（イーストマン音楽学校教授）

雇用期間：2021年4月1日～2023年3月31日（2019年度より継続）

・ペトリ・アランコ（シベリウス・アカデミー教授）

雇用期間：2022年5月10日～2022年7月2日

・ユハ・タパニ・コスキネン（作曲家）

雇用期間：2023年1月11日～2023年2月28日

（2）外国人客員教員による特別講座等

・室内楽の饗演

・芸術講座 川島幸子が歌うミニョン&オフィーリア

【リモート・アーティストインレジデンス（AIR）・プロジェクト】

キム・ミョンボム氏から送られた遠隔指示を確認し、学生が作品を代理で制作する様子



## 15. アウトリーチプロジェクト

【芸術大学】

### (概 要)

本プロジェクトは、芸術を必要としていながらホールや美術館に足を運ぶことが困難な方たちの元へ芸術家が出向いてアートを届ける活動のうち、届け先を病院に絞った「病院アウトリーチ」を実践するもので、本学の音楽・美術の両大学院生を対象に病院における良質な芸術活動に関わるアーティストを育成します。

大学院音楽研究科「アート・マネジメント」、美術研究科「プロジェクト研究」の授業を拡大し、病院における芸術活動に特化した音美合同の講座を2017年度より開設しています。受講生は、前期でアウトリーチの特色である対象者とのコミュニケーションに基づいた企画の実践として、子供向けアウトリーチを保育園や児童館等で行った後、後期で病院に特化したアウトリーチに関して理論と実習を通じてノウハウを学ぶことにより、「自ら企画し、実践できる」スキルを身に付けます。

医療における芸術活動は、必要性は認識されながらもいまだにノウハウが確立していません。本学においてそれに関わる芸術家が育成されることで、愛知県はもとより、日本全体にとって大きな成果が生まれることが期待されます。

また、本プロジェクトでは病院アウトリーチを行うアーティストの育成にとどまらず、病院における芸術活動に関する調査・研究を行うとともに、芸術による地域貢献も視野に入れた活動です。2019年度は、藤田医科大学病院において、従来の1階でのコンサートに加えて小児病棟でのコンサートを開始したほか、強い希望のあった名城病院や白山リハビリテーション病院、障害者支援等を行う施設などに活動の場を広げ、訪問先の患者に合わせたプログラムを検討して実施するなど、それぞれの病院の特性やニーズに合わせた取組を行いました。また、このプロジェクトが芸術教育自体に新たな可能性を開くものであることを提示する目的で、7月にシンポジウム「芸術教育の新たな可能性～愛知芸大「病院アウトリーチプロジェクト」がめざすもの」を開催し、本プロジェクトの今後の道筋を社会に問いかける機会を作りました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で病院では実施できませんでしたが、保育園において実施しました。また、各施設で視聴してもらうための演奏動画を試作しました。

本プロジェクトで学んだ学生たちは、アール・ブリュットの演奏会などでその知見を活かした活躍をしています。

2021年度も病院に訪問しての演奏はできませんでしたが、藤田医科大学に対しては、動画配信により音楽を届けたほか、東部保育園及び社会福祉施設、障害者支援施設等に訪問しての演奏会を実施しました。また、あいちアール・ブリュットと連携して、10月にアール・ブリュット障害者アーツ展でコンサートを実施しました。さらに、東京藝術大学からの受託事業で「だれでもピアノ」のファシリテーターによるレッスンを実施しました。そのほか、愛知県立大学 ICT テクノポリス研究所との連携による「音楽の感情測定プロジェクト」にも関わることができました。

本プロジェクトで学んだ学生たちは、アール・ブリュットの演奏会などでその知見を活かした活躍をしています。

2022年度は、東部保育園、豊田西病院、よつ葉の家に訪問して演奏会を実施しました。保育園だけではなく、精神科病院と障害者支援施設での実践を行いました。「病院アウトリーチプロジ

ェクト」が医療分野を主眼に置きながらも、福祉分野への発展性をもつことを強く意識した一年であったと言えます。

**【2022 年度のアウトリーチプロジェクト実践場所一覧】**

(1) 保育園

尾張旭東部保育園

(2) 病院

豊田西病院

(3) 障害者支援施設

よつ葉の家



## 16. 美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻

【芸術大学】

### (概 要)

2022 年度に新たに開設したメディア映像専攻は、現代社会のコミュニケーションツールとなっているメディア映像や先端的な技術をベースとしたデザイン・芸術にアプローチし、新たなメディア映像表現を開拓することに挑戦します。

このことを実現するため、これまでの芸術の枠にとらわれずに分野・領域を柔軟に横断する独自の少人数教育でカリキュラムは構成されています。

学生は、メディア映像のスペシャリストになるための基礎的デザイン造形力を習得し、デジタル映像やアニメーションの制作技術、CGを利用したVFX・ARコンテンツデザインなどを始めとする、ポストブロードキャストを視野においたメディア映像表現の可能性を追求していきます。

さらに、デジタルアート&エンタテインメント・デザインとしてのメディア企画、アドバタイジングデザイン、メディアアート、デジタルアーカイブ、メディア映像文化研究など、新時代のアクティビティの多様性を学びます。

このように高度に情報化した社会に対するプロデュース能力を身につけていくことによって、様々な映像やメディアを通じた表現を新たなイメージで創造できるデザイナーやアーティストの育成をめざしています。

そして、最新情報を取り入れた質の高い教員を展開するため、国内の著名なアーティストである以下の4名を「特任教授」として2022年度に招聘しました。

石橋素先生（テクノロジーアート、ハードウェア開発）

長谷川愛先生（メディアアート研究）

比嘉了先生（CG表現研究、ビジュアルアート）

堤幸彦先生（演出家、映画監督）

### [現行]

学 科	専 攻
デザイン ・工芸科  〔入学定員 45人 (180人)〕	デザイン専攻〔入学定員 35人 (140人)〕
	陶磁専攻〔入学定員 10人 (40人)〕

### [2022年度～]

専 攻
デザイン専攻〔入学定員 25人 (100人)〕
メディア映像専攻〔入学定員 10人 (40人)〕
陶磁専攻〔入学定員 10人 (40人)〕

専攻の  
新設  
➔

※( )内は収容定員

## 17. 芸術大学におけるキャリア支援

【芸術大学】

### (概 要)

近年の芸術学生は、卒業後すぐに自立を目指す傾向が強く、就職希望者が急増していることから、大学におけるキャリア支援の重要性が高まっています。

本学では、学生それぞれが学ぶ芸術の専門分野を活かして就職活動を進められるよう、独自に企画したガイダンスの開催等により学生を支援し、高い就職率を達成しています（2022 年度実績：就職内定率 82.5%）。

2022 年度より実施した学部 1・2 年向け「課題解決ワークショップ」は学生から非常に好評で、今後も実施したいと考えています。今後も、クリエイターを目指す本学の学生にマッチした低学年向けセミナーを企業とタイアップして計画していく予定です。

### (実施状況)

キャリアサポートガイダンス：29 回実施（2021 年度：28 回実施）

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面とオンラインのハイブリット方式で実施

ガイダンスの種類	内 容
対面（16 回）	就活準備スタートアップガイダンス、就活マナー講座 インターンシップガイダンス（前期・後期）、自己分析講座 ポートフォリオ作成講座 自己診断テスト・職業適性検査 課題解決基礎力養成講座（前期・後期） 内定者体験報告会（全学部・デザイン専攻単独） エントリーシート対策講座 筆記試験（SPI）対策講座 グループディスカッション講座 グループディスカッション演習 電通チームワークショップ 芸術学生のための合同企業説明会
オンライン（13 回）	愛知県教員採用試験説明会、自衛隊音楽隊説明会、中日新聞社説明会、 コナミグループ説明会、コクヨ企業研究セミナー、 コレオ企業研究セミナー、サイバーエージェント企業研究セミナー、 セガ企業研究セミナー、テレビ朝日クリエイト企業研究セミナー、 デンソー企業研究セミナー、トヨタ紡織企業研究セミナー

## 18. 教員による芸術・研究活動の主な実績

【芸術大学】

<美術学部>

氏名	業績
岡田 眞治	・個展（大宮そごう、松坂屋名古屋本店）・春の院展出品 ・グループ展 湧心会, CINQ Lumier, やまところ, さあ旅に出よう, 青美展
井手 康人	・春の院展出品 ・個展 瀬戸内市立美術館「神々の視座ー井手康人展」
吉村 佳洋	・院展出品 ・機の会（大阪・ギャラリー菊）、湧心会（富山大和）、青美展（名古屋美術倶楽部） ・La Premiere etoile 展（上野松坂屋、大和香林坊）、若鶯会（三越）
岩永 てるみ	・グループ展 高知和紙日本画展晴晴会（大丸高知店・神戸店・松坂屋名古屋店・東京店） 再興院展（東京都美術館他）春の院展（日本橋三越他） ・個展（豊田画廊） ・古典絵画の研究 文化財保存修復研究所の活動と研究を積極的に進める。 科研（研究代表者）「中世大画面祭礼図の構図法の研究ー月次祭礼図屏風模本の失われた左隻の推定を中心にー」
阪野 智啓	・科研／基盤研究B「中世やまと絵」の研究遂行（代表） ・科研／基盤研究C「月次祭礼図」の研究遂行（分担） ・科研／基盤研究C「芸術教育」の研究協力（分担） ・科研／基盤研究A「和紙データサイエンス」(分担) ・科研／基盤研究B「文化としての武」(復元画協力) ・日東助成「中世屏風絵裂地と裏地の研究」(代表) ・日比助成「中世金箔地の研究」(代表) ・受託研究「野亨寺蔵「親鸞聖人絵伝」の保存処置および調査研究」(代表) ・第44回文化財保存修復学会口頭発表 ・東京大学「長篠合戦図屏風復元研究」研究員 ・愛知県立大学「人間の尊厳と生命のための人文社会研究所」研究員
阿野 義久	・丹桂の会 豊田画廊 ・THREE POSITION うしお画廊 ・阿野義久展ー夏至白夜ー 豊田画廊 ・ながくてアートフェスティバル（イオンモール長久手催事場、日東工業企画） ・阿野義久展 生命形態ー日常・存在・記憶ー（はるひ美術館企画展） ・設楽智昭追悼展 サテライトギャラリー ・○日東財団社内報表紙デザイン
倉地 久	・個展「Crispy Eyes」ー不定形ー 万画廊 ・<Exhibition to remember SHITARA 設楽知昭>SA・KURA ギャラリー ・第89回日本版画協会版画展 東京都美術館
額田 宣彦	・「温泉大作戦」展/ハギワラプロジェクト（東京） ・美術学部教員展/芸術資料館（愛知） ・「GROUND3」展/愛知アートラボ（愛知）
井出 創太郎	・『写しとるアート 木版画・銅版画・孔版画の世界』（阪急うめだ本店） ・『収蔵品展Ⅲ「±30：軌跡の刻印」』（サテライトギャラリーSA・KURA） ・『落石計画 2022』（旧落石無線送信局/北海道根室市落石西） ・『版と言葉 2021PRINTS AND WORDS』（沖縄県立芸術大学） ・『瀬戸現代美術展 2022』（旧まき幼稚園/愛知県瀬戸市） ・『教員展』（愛知県立芸術大学資料館） ・『光射す器/種蔵の影』（種蔵集落内板倉/岐阜県飛騨市） ・「Exhibition to remember SHITARA 追悼 設楽知昭」サテライトギャラリーSA・KURA） ・『INDIRECT' 22』展（愛知県立芸術大学版画研究室）
白河 宗利	・「光と青の汽水 -Light Meets Blue 白河ノリヨリ」HRD FINE ART（京都） ・「葵の会」銀座スルガ台画廊（東京） ・「AFAF アートフェアアジア福岡」Spece 0' NewWall（韓国/ソウル）+ HRD FINE ART（京都） ・名古屋市美術館収蔵作品の調査研究 受託研究「猛獣画廊壁画修復プロジェクト及び事前調査」 受託研究「油彩画 宮本三郎《裸婦》(仮題)の修復」

岩間 賢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京ビエンナーレ」・中房総国際芸術祭「いちばらアート×ミックス」</li> <li>・「ARTFULCAMPUS」@名古屋工業大学・「月出工舎 「みんなでつくるがっこう」(千葉)</li> <li>・「取手アートプロジェクト」(茨城)・「OMA(ONOMICHI ART MUSEUM) PROJECT」(広島)</li> <li>・「ARTODAY」(レクチャーシリーズ)(愛知)</li> </ul>
大崎 宣之	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第3回PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ 2022」 京都市京セラ美術館</li> <li>・Solo Exhibition   大崎のぶゆき「Travel Journal」 Yuka Tsuruno Gallery</li> <li>・リ・フレッシュャーズ-新収蔵品紹介展-(後期) 兵庫県立美術館</li> <li>・トラベル・ノート/シュトゥットガルト5愛知 2021-2022、愛知芸大サテライトギャラリー</li> <li>・愛知県立芸術大学教員展 愛知県立芸術大学資料館</li> <li>・「DOMANI・明日展 2022-23 百年まえから、百年あとへ」 国立新美術館</li> <li>・Exhibition to remember SHITARA 追悼 設楽知昭愛知芸大サテライトギャラリー</li> <li>・書籍装画 妹尾武治著『僕という心理実験』(光文社新書) 装画として作品提供</li> <li>・兵庫県美術館に作品「shining mountain/climbing the world」(2012年)が収蔵</li> </ul>
安藤 正子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」平塚市美術館、足利市立美術館、高岡市美術館、ふくやま美術館、新潟市美術館、久留米市美術館</li> <li>・「ホモ・ファーベルの断片 一人とものづくりの未来」 愛知県陶磁美術館</li> <li>・「瀬戸現代美術展 2022」 菱野団地各所(瀬戸)</li> <li>・「第47回美術学部教員展」愛知県立芸術大学芸術資料館</li> <li>・「Exhibition to remember SHITARA 追悼設楽知昭展」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー-SA・KURA</li> </ul>
平川 祐樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個展「Untitled Tear」アンドーギャラリー(東京)、ギャラリーStandingPine(名古屋)</li> <li>・グループ展 イギリス・シェフィールド美術館</li> </ul>
横山 奈美	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「サンセット/サンライズ」豊田市美術館</li> <li>・「リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」平塚市美術館、足利市立美術館、高岡市美術館、ふくやま美術館、新潟市美術館、久留米市美術館 [巡回展]</li> <li>・「反復と平和-日々、わたしを繰り返す」 ボーダレス・アート・ミュージアム NO-MA</li> <li>・「ゆらぐbe with light」 kojiri Kyoto ・「Shape of Your Words」 Iti Setouchi(広島)</li> <li>・「六本木クロッシング 2022 展 往来オーライ！」 森美術館</li> </ul>
神田 每実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立民族学博物館 DB 解析の継続</li> <li>・学会への参加/地中海学会(鳴門)、文化財保存修復学会(熊本)</li> <li>・研究論文執筆/愛知県立芸術大学紀要第52号</li> <li>・あいちアールブリュットサテライト展/マテリアル(素材)の発見企画/愛知県陶磁美術館</li> <li>・種蔵プロジェクト 2022 参画</li> <li>・研究発表/第106回二科展/東京・愛知</li> <li>・研究発表/個展/名古屋(AUA サテライトギャラリー)</li> </ul>
中谷 聡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第85回新制作展出品(国立新美術館、京都京セラ美術館)</li> <li>・第9回花とみどり・いのちと心展(国営昭和記念公園)</li> <li>・第3回枕崎国際芸術賞展</li> <li>・川越市市制100周年記念モニュメント模型入選</li> </ul>
高橋 伸行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日比科学技術振興財団助成による一般研究課題「病者の身体をめぐる彫刻表現 その社会的位置づけと表現技術の研究」の実践</li> <li>・瀬戸内国際芸術祭およびART SETOUCHI 関連事業、国立療養所大島青松園での取り組み {つながりの家} のディレクション</li> <li>・瀬戸内国際芸術祭 2022 に参加。新作「声の楔(くさび)」の制作および発表。</li> </ul>
竹内 孝和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個展“土の知らせ” DiEGO(東京)</li> <li>・個展“Floating space” オイレンシュペーゲルギャラリー(スイス)</li> <li>・教員展(愛知県立芸術大学芸術資料館)</li> <li>・“International Invitation Exhibition of Color Works”(韓国)</li> </ul>
村尾 里奈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「水平性・水平線」展(愛知県立芸術大学サテライトギャラリー)</li> <li>・「彫刻家森克彦展/翼果の帰郷展」(古川美術館為三郎記念館)</li> <li>・「惑星の姿見の中に」展(愛知県立芸術大学サテライトギャラリー)</li> </ul>
小西 信之	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文投稿「ロバート・スミッソン: ノンサイト」愛知県立芸術大学紀要</li> <li>・寄稿 展評「ミニマル/コンセプチュアル: ドロテ&amp;コンラート・フィッシャーと 1960-70年代美術」。『REAR』48号</li> </ul>
本田 光子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤C「光則・光起を中心とする近世土佐派絵師の基礎的研究」(研究代表者)</li> <li>・村田学術財団「ウズベキスタンミニアチュールの伝統技法の継承と系譜の解明」(研究代表者)</li> <li>・豊秋奨学会「日本美術史における子どもの表象に関する基礎的研究」(研究代表者)</li> <li>・基盤C「中世やまと絵屏風の光輝表現についての技法再現研究」研究分担者</li> <li>・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化B)「世界の紙の伝播とサルカンド紙の解明</li> </ul>

	に関する調査研究」研究分担者
金子 智太郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後日本美術と音の結びつきをめぐる研究、展覧会の開催</li> <li>・戦後日本のオーディオ文化に関する研究</li> <li>・音と芸術をめぐる書評アンソロジーの出版準備</li> <li>・ジョナサン・スターン『MP3』翻訳</li> <li>・地域の音文化をめぐる共同調査</li> </ul>
望月 未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品出品 MIDTOWN OPEN THE PARK こいのぼり GALLERY(東京ミッドタウン)</li> </ul>
水津 功	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「共進化のデザイン」日本財団みらいの福祉施設建築プロジェクト</li> <li>・尾張旭市受託事業「三郷駅前まち育てプロジェクト」</li> <li>・薪ストーブデザイン研究 ・中川運河再生計画への取り組み</li> <li>・県立大学南門サイン計画</li> </ul>
柴崎 幸次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和紙素材の研究：和紙工場の整備、芸大生のための和紙を作るプロジェクト</li> <li>・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))の研究実施。</li> <li>・「素材の現在(いま)を見て、未来を考える」などのプロジェクト、小津和紙東京日本橋商工会</li> <li>・二国間交流事業共同研究の実施</li> <li>・東京小津和紙での展覧会開催</li> <li>・2023年、ドイツ・パッサウでの展覧会の作品制作、企画</li> <li>・科研費A「データサイエンスによる紙の道の解明—量的・質的調査とAI多面的解析に基づいて—」の実施</li> </ul>
佐藤 直樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文字と書体のデザイン」書体制作デザイン、タイポグラフィデザイン、ロゴタイプデザイン、VIデザイン等の研究</li> <li>・「オペラの舞台デザイン」オペラの舞台デザインアートディレクター</li> <li>・「サインデザイン研究」サインデザインシステムの開発研究</li> <li>・「ホスピタリティーのデザイン」病院や看護におけるデザインの研究と教育</li> </ul>
本田 敬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援施設との共同開発フェルト製品 See Sew の販売移行と広報活動の強化</li> <li>・地場産業、就労支援施設との連携をはかり、製品デザイン開発分野で専門領域であるプロダクトデザインの研究を行う。</li> </ul>
夏目 知道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしと空間にかかわるデザイン ・オフグリッドライフデザイン</li> <li>・ノコプロジェクト ・プロジェクト相生山</li> <li>・インテリアデザイン サロン(表参道)、美容室(白金)、マンション(原宿)、ベーカリーレストラン(福島)、オフィス(日本橋)</li> <li>・リノベーションデザイン 古民家(京都)</li> </ul>
春田 登紀雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「藤が丘駅によるリニモサイネージ開発」(LINIMO 愛知高速交通鉄道株式会社)</li> <li>・「サーキュラーエコノミーの事業化開発」(時毛織株式会社)</li> <li>・「MONOUKURIの地域貢献活動」(西川コミュニケーションズ株式会社)</li> <li>・愛知県立大学学長特別研究プロジェクト「教育用ロボット開発」</li> </ul>
梅本 孝征	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ展」国立工芸館、山口県立萩美術館、九州陶磁文化館、MOA美術館 ・「梅本孝征の面白いカタチ展」工芸ギャラリー手児奈</li> <li>・「第53回東海伝統工芸展」入選 ・「第69回日本伝統工芸展」入選 ・「第10回陶美展」入選 ・色絵流加彩技法における色釉の研究</li> </ul>
長井 千春	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラス&amp;カップ展 ギャラリー由美(湖西市)</li> <li>・韓国陶磁デザイン協会国際交流展 ギャラリートポハウス(韓国ソウル)</li> <li>・The Cross展2022 ギャラリー間(東京)</li> </ul>
佐藤 文子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人日本学術振興会研究助成 - 二国間交流事業共同研究・セミナー「ウズベキスタンプルーの復興 - 建築と壁画装飾における修復調査を中心に」</li> <li>・日東学術振興財研究助成 - 陶芸制作技法をつかったワークショップの可能性〜こどもを対象とした工芸教育と創作に有効な方法を探る</li> <li>・「第53回東海伝統工芸展」愛知県芸術文化センター</li> <li>・「第82回瀬戸陶芸協会展」瀬戸信用金庫本店ギャラリーひまわり</li> <li>・「東海伝統工芸の今〜第53回東海伝統工芸展より〜」愛知県陶磁美術館</li> <li>・4共同研究—(株)中部リサイクル「石材を活かした新製品開発」</li> </ul>
田上 知之介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・COEXISTENCE「共存」International Ceramic Exhibition by Korea Ceramic Design Association 2022.6.15~6.27</li> <li>・あいちトリエンナーレ関連事業 愛知県陶磁美術館企画展「ホモ・ファーベルの断片」展出品 ・日本デザイン学会 作品論文投稿 ・第47回愛知県立芸術大学美術学部教員展</li> <li>・MASATOSHI SAKAEGI THE CROSS 展企画・運営、作品出品、帝国ホテルプラザ 助成：公益財団法人朝日新聞文化財団</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田上研究室グループ展「seed 展 vol. 5」企画および作品出品、研究報告書の作成</li> </ul>
崔 幸熏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 韓国陶磁器デザイン協会国際交流展—共存— (韓国、TOPHAUS)</li> <li>・「seed 展 vol. 5」参画 ・第 47 回愛知県立芸術大学美術学部教員展出展</li> <li>・国際芸術祭あいちパートナーシップ事業「時のカタチ」展 (愛知県常滑市)</li> <li>・「MASATOSHI SAKAEGI THE CROSS 展」 (東京、AWAI THE COVER NIPPON)</li> <li>・常滑急須の量産生産に関する研究 (量産型制作技術を中心に)</li> </ul>
小枝 真人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第 5 3 回東海伝統工芸展」</li> <li>・「第 1 1 回名美アートアリウム 青美展」 (名古屋美術倶楽部)</li> <li>ぐい呑展 (ギャラリー数寄)、日本工芸会陶芸部会 50 周年選抜展 (福岡三越)</li> <li>2022 酒器展 (三越日本橋本店、福岡三越、益子ギャラリー緑陶里)</li> <li>伝統工芸のチカラ展 巡回展 (石川国立工芸館 山口県立萩美術館 佐賀県立九州陶磁文化館 熱海 MOA 美術館)</li> <li>・染付小枝真人展 (ジェイアール名古屋高島屋)</li> </ul>
石井 晴雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬山城下町景観計画 (犬山市都市計画課)</li> <li>・ながくてクッキー、長久手市ふるさと納税返礼品パッケージデザインディレクション (長久手市観光交流協会)</li> <li>・長久手市シルバー人材センタープロモーションディレクション (長久手市シルバー人材センター)</li> </ul>
森 真弓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QOL向上のための、生涯スポーツ普及に向けた企画及び表現研究</li> <li>・パラスポーツ普及のための企画及び表現研究</li> <li>・日本映像学会 ・日本デザイン学会</li> </ul>
有持 旭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新作アニメーションの制作 (サウジアラビアの世界文化センターIthra とポーランドのアニメーション・スタジオの企画)</li> <li>・個展 ギャラリーLIBRAIRIE6(東京) ・作品集『リゾームスケッチ』を刊行</li> <li>・山村浩二作品『幾多の北』に関する論文執筆のための調査</li> <li>・科研費基盤 C の研究を遂行：エストニアとクロアチアで国外研究調査</li> </ul>
池田 泰敬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《7 blinks after a decade》2021/ 36 '02" /Japan オムニバス映画・監督 [68th International Short Film Festival Oberhausen</li> <li>・《BETWEEN YWSTERDAY&amp;TOMORROW Omnibus 2011/2016/2021》2021/ 64 '00" /Japan オムニバス映画・監督 [ドキュメンタリー・ドリーム・ショー 山形 in 東京 2022</li> <li>・《BETWEEN YWSTERDAY&amp;TOMORROW #01-#04》[第 47 回教員展]監督</li> <li>・科研費研究「時間軸を持つ 3D データ及び映像・音響データを用いたアーカイブシステムの開発」 研究代表者</li> <li>・COI-NEXT (国立研究開発法人科学技術振興機構【共創の場形成支援プログラム】「地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点」 研究分担者</li> </ul>
数森寛子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ロマン主義文学と死生観の変容」(科学研究費助成事業)</li> <li>・「フランス・ロマン主義の歴史的展開についての研究——文学、政治、美学」(科学研究費助成事業)</li> </ul>

< 音楽学部 >

小林 聡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“Glass Swan” for Piano 再演・新作歌曲の初演 (東京)</li> <li>・ハープ協奏曲 5 番初演 (ハンブルク)・ハープ協奏曲 6 番初演 (知立)</li> <li>・ハープシコードのための新作 (日本とヘルシンキでの初演)</li> </ul>
山本 裕之	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品発表 (演奏)</li> <li>ピアノソロのための作品 再演：愛知県立芸術大学、九州大学芸術工学部大学 院芸術工学府大学院芸術工学研究院</li> <li>ギター2本のための作品 初演：ミューズ音楽館 (愛知)、マリーコンツェルト (東京)</li> <li>サクソフォーンと電子音響のための作品 初演：エリザベト音楽大学 (広島市)</li> <li>吹奏楽編曲作品 再演：まなみーる (岩見沢)、キタラホール (札幌)</li> <li>・作品出版 吹奏楽のための作品、吹奏楽のための編曲作品 (ネクサス音楽出版)</li> <li>・研究調査 名古屋の作曲家である戸島美喜夫 (1937-2020) の作品リスト制作</li> </ul>
成本 理香	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミラノ、ローマ、ロンドン、ヘルシンキにおいてそれぞれ作品の再演。</li> <li>・ピアノ独奏作品再演 (本学、九州大学)・ヴィオラ独奏のための新作初演 (金沢市)</li> <li>・ヴィオラとチェロの二重奏曲の再演 (東京、福岡)</li> <li>・ギター独奏のための新作初演 (沖縄)・トイピアノのための新作初演 (本学)</li> <li>・ソプラノと弦楽トリオのための新作初演 (名古屋市)</li> <li>・ピアノとラップトップのための新作初演 (大阪)</li> <li>・バリトン、ヴァイオリン、打楽器、ピアノのための作品再演 (ニューヨーク)</li> <li>・日東財団研究助成「クロスジャンル (ジャンルの越境)」により生まれる音楽作品の研究</li> </ul>

安野 太郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアニスト八坂公洋のコンサートにて、「waveform composition study no.1」発表（愛知県立芸術大学、九州大学）・大地の芸術祭 「偽ハルモニア論」発表</li> <li>・Homō loquēns「しゃべるヒト」ことばの不思議を科学する展、音楽提供 国立民族学博物館）・自動演奏ピアノ作品の個展（1/19,九州大学）</li> <li>・トイピアノのための新作発表（本学）</li> <li>・音楽クラコ座公演、戸島美喜夫：アンヴァンション・ソノールVIのエコーマシン部分のデジタル復元（愛知県芸術劇場）</li> </ul>
七條 めぐみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大正時代の日本におけるドイツ軍捕虜の音楽活動」</li> <li>・「18世紀ドイツの音楽文化における亡命ユグノーの貢献」</li> </ul>
中巻 寛子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀後半から20世紀前半にかけての、日英伊の声楽作品ならびにその演奏に関する実践的、学術的研究</li> </ul>
小原 啓楼	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹多倫子 ソプラノリサイタル 賛助出演（五島記念文化賞 オペラ新人賞研修帰国記念）</li> <li>・愛知祝祭管弦楽団 ワグナー《トリスタンとイゾルデ》全3幕（演奏会形式 日本語字幕付き）</li> <li>・中部フィルハーモニー交響楽団 第84回定期演奏会「秋山のベートーヴェン・ツィクルス6」ベートーヴェン：交響曲第9番ニ短調「合唱付き」</li> <li>・みんなで歌う第九の会 郡山「新春の第九第10回演奏会」ベートーヴェン：交響曲第9番ニ短調「合唱付き」</li> </ul>
初鹿野 剛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサート出演 おととおとと vol.15 山田耕筰とR.シュトラウス（宗次ホール）、子育て講演会「大人のためのおしゃべりコンサート」（焼津市大井川文化会館ミュージコ）</li> <li>・オペラ出演 名古屋テアトロ管弦楽団《カヴァレリア・ルスティカーナ》（東海市芸術劇場）、愛知祝祭管弦楽団《トリスタンとイゾルデ》（愛知県芸術劇場コンサートホール）</li> </ul>
川島 幸子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサートの出演</li> <li>ヨハネ受難曲 ソプラノソロ（岐阜） デュオリサイタル（岡山）</li> <li>・芸術講座 レクチャーコンサート 川島幸子が歌うミニョン&amp;オフィーリア</li> </ul>
森 寿美	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏研究 Raum!t ドイツ歌曲コンサート（京都市） フォーレ《レクイエム》（可児市 中部フィル） 山田町チャリティーコンサート（つくば市） シューマン：歌曲コンサート（名古屋市） レオンカヴァッロ：《道化師》シルヴィオ役（名古屋市） フォーレ：《レクイエム》（名古屋市） 歌曲・オペラ重唱コンサート（大阪市） 男声合唱団ゾントーク定期演奏会（大和郡山市） あったかハートのコンサート（豊川市） グノー：《聖チェチリエ・ミサ》（名古屋市） 平田聖子：声楽作品（東京、福山市） ブリテン：《カーリユー・リバー》旅人役（牛久市） ベートーヴェン：《第九》（名古屋市 名古屋フィル） Raum!t ドイツ歌曲コンサート（神戸市） 川口節子バレエ団公演（1月 名古屋市 中部フィル）</li> <li>・研究論文 シューベルト歌曲表現に関する考察</li> </ul>
熊谷 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・J. S. Bachの作品の教育における必然性、教育への取り入れ方、伝授する方法をその演奏法の研究</li> <li>・J. プラームス、J. S. Bachのピアノ作品の演奏法の研究</li> <li>・ピアノを含む室内楽、ピアノ重奏の演奏法の研究</li> <li>・ドイツ3都市でソロ・室内楽演奏会 ・日本歌曲演奏会 東京</li> <li>・ピアノコンサート 東京・新宿コンサートホール</li> </ul>
掛谷 勇三	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セルゲイ・ラフマニノフ生誕150周年記念ピアノ独奏作品宛曲演奏会 Vol.1（全4回）</li> <li>・ピアノリサイタル開催（東京公演）「S. ラフマニノフ生誕150周年記念ピアノ独奏作品宛曲演奏会 Vol.1」 ラフマニノフ：コレルリの主題による変奏曲 作品42、8つの練習曲 作品33、ひなぎく 作品38-3、ピアノソナタ第1番 ニ短調 作品28</li> </ul>
鈴木 謙一郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典（モーツァルト、ハイデン等）における様式感と演奏法の研究</li> <li>・ロシア音楽におけるヴィルトオーズの演奏法の研究</li> </ul>
中尾 純	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生誕150年を迎えたスクリャービンのピアノソナタ全曲演奏会全3回</li> </ul>
武内 俊之	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約3年に及ぶ Rachmaninov ピアノ作品に関する集中的な研究の集大成として、アルバムのレコーディングを行う</li> </ul>
福本 泰之	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トリオ「F」リサイタル 別館ノヴァリウム</li> <li>・トリオ「F」リサイタル vol.2 長久手市文化の家</li> <li>・室内楽の饗演 vol.1 電気文化会館ザ・コンサートホール</li> <li>・名古屋二期会オペラ「フィガロ」全幕 コンサートマスター 愛知県芸術劇場</li> <li>・デュオ「F」コンサート vol.3 豊田 別館ノヴァリウム</li> <li>・デュオ「F」コンサート vol.3 長久手市文化の家</li> <li>・愛知県立芸術大学オペラ公演「偽の女庭師」コンサートマスター 長久手市文化の家</li> <li>・愛知県立芸術大学弦楽合奏団 第17回定期演奏会 三井住友海上しらかわH</li> </ul>

花崎 薫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美瑛薫風舎コンサート ・石が瀬の森サロンリサイタル</li> <li>・近畿フィルハーモニーオーケストラ定期演奏会ソリスト出演、ドヴォルザークチェロ協奏曲</li> <li>・室内楽の響演、電気文化会館 ・青梅ヴァイオリンとチェロデュオリサイタル</li> <li>・リサイタル、豊田市コンサートホール ・リサイタル、京都カフェ・モンタージュ</li> <li>・ベートーヴェン、チェロとピアノのための全作品 CD、リリース</li> <li>・クライスアンサンブルコンサート、ハクジュホール</li> <li>・カンマーフィル神戸コンサート 指揮者出演 ・リサイタル、那須弦楽亭</li> <li>・シューベルト室内楽コンサート、宗次ホール</li> <li>・白尾彰リサイタル、共演、東京文化会館</li> <li>・東京シンフォニエッタ定期公演、東京文化会館</li> <li>・リサイタル、渋谷レストランシノワ ・川島准教授リサイタル、共演、電気文化会館</li> <li>・室内楽の響演Ⅱ 電気文化会館</li> </ul>
桐山 建志	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菰野ピアノ歴史館を利用したピリオド奏法の研究</li> <li>・来年没後 150 年を迎える Ferdinand David の作品研究</li> </ul>
渡邊 玲雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンサンブル of トウキョウ第 1 4 3 回定期演奏会 東京文化会館</li> <li>・ダブルポートレイト・フォー・マリimba・アンド・ザ・フューチャー神奈川県立音楽堂</li> <li>・ポートレイト・フォー・パーカッション 2022 サントリーホール</li> <li>・須藤慎吾バリトンリサイタル 紀南文化会館・室内楽の響演 河口湖音楽と森の美術館</li> <li>・アンサンブル of トウキョウ第 1 4 5 回定期演奏会 東京文化会館</li> <li>・愛知県立芸術大学弦楽合奏第 1 7 回定期演奏会 しらかわホール</li> <li>・広島交響楽団オーケストラディスカバリーシリーズ JMS アステールプラザ大ホール</li> <li>・川島幸子先生芸術講座 電気文化会館</li> <li>・花崎薫先生プロデュース 室内楽演奏会 電気文化会館</li> <li>・東京・春・音楽祭チェンバーオーケストラ 東京文化会館</li> </ul>
深町 浩司	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京交響楽団、日本フィルなどオーケストラの客員首席ティンパニ奏者として公演参加</li> <li>・ルネサンス以降のティンパニ奏法の研究、その音色の社会的意味をあぶり出し、現代の奏法に応用するためのメソッドを確立する</li> </ul>
橋本 岳人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新日本フィルハーモニー交響楽団、パシフィックフィルハーモニー東京他へ客演首席フルート奏者として参加。・ソロ演奏会、また多数の室内楽演奏会に招聘され出演する。</li> </ul>
ブルックス信雄 トーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンサンブル、大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー、OMI シンフォニエッタ、グランドフィルハーモニック東京など日本のプロオーケストラで演奏</li> </ul>
大塚 直	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費「劇作家エデン・フォン・ホルヴァートの初期社会劇とバイエルン革命の遺産」研究代表者</li> </ul>
井上 彩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ・クレオールの文法的変異の社会的及び言語内的要因（科研費助成事業）</li> <li>・ハワイ・クレオールにおける視覚的語彙認識（科研費助成事業）</li> <li>・日本語系混成言語研究の概要（共同研究）</li> <li>・英語教育における教材研究：英語教科書における母語話者と学習者の表象（共同研究）</li> </ul>
三品 陽平	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費「大学の教員養成における「省察」言説の生成・受容とその問題に関する総合的研究」（共同研究者）</li> <li>・科研費「「チーム学校」の実現をめざすアクションリサーチ—学校教育版 TPE の試み—」（共同研究者）</li> </ul>



## 19. 企業、研究機関などとの連携、共同研究

【芸術大学】

### <共同研究>

内容	共同研究者
「生分解性素材を活用した循環型社会の実現を目指すビジネスプランニング及びトータルブランディング」の共同研究	時田毛織(株)
野亨寺蔵「親鸞聖人絵伝」の保存処置および調査研究の共同研究	名古屋造形大学

### <受託研究>

内容	研究者
野亨寺蔵「親鸞聖人絵伝」第 1-3 幅修復	野亨寺と文化財保存修復研究所、日本画専攻教員
「長久手合戦図屏風」模写制作	長久手市、徳川美術館、日本画専攻教員、文化財保存修復研究所
油彩画 寺崎武男《ヴェロネーゼ「レヴィ家の饗宴」模写》の修復	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団と油画専攻教員
須賀神社農村舞台襖絵欠失面の復元画制作	須賀神社と文化財保存修復研究所、日本画専攻教員
猛獣画廊壁画修復プロジェクト及び事前調査	名古屋市美術館と文化財保存修復研究所、油画専攻教員
【COI-NEXT】地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点	名古屋大学、東海大学、KDDI 総合研究所、KDDI 株式会社、デザイン専攻教員

### <企業、研究機関などとの連携>

内容	連携
「陶磁教育・課題作品交流事業」受託し、全国の陶磁系学科・専攻を有する 11 大学と連携し、企画実施の方向性を決定した。	一般財団法人神戸財団（受託事業）
次世代を担う若手芸術家の発信発表の場を創出し、経済界と現代アートとの融合、停滞した経済への考え方を変革する新たな価値観を生み出す活動を実施。イノベーターズガレージ賞の受賞者の審査を行った。（2021 年度～2 回目）	中部圏イノベーション推進機構
Music in the GARAGE! 受託事業 7 月と 12 月にコンサートを実施した。	中部圏イノベーション推進機構

<p>特別授業 「SDGs を学ぶ ～ SDGs と学生・企業の関わり～」を実施した。</p>	<p>(株)横井定</p>
<p>学生による展示依頼があり、「芸大生の ShowCase」と題し、本学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学が参加し、東急ホテル2階のショーケースに作品を展示した。(2021年度～2回目)</p>	<p>(株)CBCテレビ CBCクラブ事務局</p>

## 20. あいち2022芸術大学連携プロジェクト

【芸術大学】

### (概要)

あいちトリエンナーレが取り組んできた先鋭的な芸術の創造を継承し、発展させていくことを目指して設立されたアートラボあいちを拠点として、2016年より、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学の県内3つの芸術大学による企画展示を行ってきました。2022年度からは、名古屋学芸大学が加わり4大学連携となりました。

各大学の境界を超え、若いアーティストたちの飛躍を期待するものとして毎年展覧会を開催しています。

### (内容)

#### (1) 開催場所

アートラボあいち (大津橋)

#### (2) 企画内容

○2022～2023年度大学連携プロジェクト[アートマネジメントアカデミー2022]

期間	2022年4月～2023年2月
内容	アートラボあいちと3大学による人材育成プログラムです。4大学から推薦された参加学生が、展覧会の企画運営を実践的に学びました。実践内容に即したゼミを開講することで、現場で必要なスキルを学び、また、定期的開催される読書会では、現代美術に関する知見を補強しました。また、アーティストへのインタビューや、国際芸術祭「あいち2022」のレビュー作成に取り組みました。 ※本学からは2名(美術学部油画専攻卒業生1名、美術学部油画専攻1名))が参加

<愛知県立芸術大学独自企画>

○本学主催展覧会「GROUND3 絵画のふつうーふつうの絵画」来場者数476名

期間	2023年2月25日～3月26日
内容	GROUNDは、画家の小林孝亘、額田宣彦、丸山直文、高橋信行、猪狩雅則によって2014年に結成されました。彼らは「展示」と「対話」とおして、描く者もみる者も共に絵画をめぐる課題や問いを思考できる場を作ることを目的に活動を続けてきました。本展は彼らの4回目の活動にあたります。 作家の新作を中心とした展示に加えて、作家が絵画の「常識」や「ふつう」とは何かという容易に答えの出ない問いについて思いを巡らせたテーマ展示も行い、展覧会初日にはシンポジウムを開催しました。画家の考える「ふつう」に立ち戻ることから改めて絵画とはなにかを考え、絵画の可能性を開くことを試みた展示が行われました。

## 21. あいちアール・ブリュット シンポジウム

【芸術大学】

### (概 要)

あいちアール・ブリュットとは、愛知県内の障害のある人の芸術・文化活動を通じて、障害のある方の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動です。

2022年度は、愛知県障害者芸術文化活動支援センターからの委託事業として、2023年2月26日に愛知県障害者芸術文化活動支援センター【アート講座】シンポジウム「アール・ブリュットの時代」を、本学教員が以下の企画で開催しました。

### (内 容)

#### (1) 開催日時・場所

2023年2月26日(日) 13:30～16:00・愛知県立芸術大学 新講義棟大講義室

#### (2) 講座内容

第1部：近年のアール・ブリュットの流れや、国際芸術祭「あいち2022」で招待作家に選ばれた経緯について

第2部：福祉現場での活動について、本学を卒業した方々からの具体的なお話

## 22. 収蔵品展・収蔵品の他機関への貸出件数

【芸術大学】

(1)

### ①収蔵品展Ⅲ「±30：軌跡の刻印」

日時：前期：2022年4月5日（火）～4月17日（日）

後期：2022年4月26日（火）～5月8日（日）

場所：サテライトギャラリーSA・KURA

<概要>

1970年に最初の卒業生を輩出してから50年を記念し始まったシリーズの第三弾であり、卒業・修了生の版画作品を紹介するとともに、版画研究室にゆかりの深い方々の作品も併せて展示した。

<展示作品>

- ・新田あけみ《The aquarium - the blue egg》1987年
- ・井出創太郎《piacer d'amor bush P.M.7:01》1991年
- ・山本絵理子《起源》1993年
- ・芦馬孝《Mind I》1996年
- ・市脇慶子《いりくみらいんにきみどりだえん》1997年
- ・仁田英二《私的身体図》1998年
- ・但馬寛昭《untitled.》2001年
- ・阿部大介《Dreams-Spill over01. 02. 03》2004年
- ・箱山朋実《心臓》2016年
- ・大山実希《無題》2017年
- ・都築遼子《すきまから見る》2019年
- ・青木絵理《ともだち 子宮の内で泳ぐ》2021年
- ・版画研究室教員作品

天野邦弘、磯見輝夫、山本富章、設楽知昭、倉地比沙支、井出創太郎、大崎宣之ほか

### ②デザインは手からはじまる 愛知芸大デザインの系譜 -磯田尚男-

日時：2022年11月5日（土）～11月20日（日）

場所：サテライトギャラリーSA・KURA

<概要>

2020年11月に急逝した愛知県立芸術大学名誉教授の磯田尚男先生（1932-2020）の回顧展。

<展示作品>

- ・磯田尚男《海潮音（春）、（春夏）、（夏）、（秋冬）、（冬）》2005年
- ・イラストレーション「出会う」「WARRIOR」（ワーラー、アメリカインディアンの顔）「MAORI」（マオリ、マオリ族の顔）「AINU」（アイヌ、アイヌ族の顔）「AZTEC」（アステカ、アステカ族の顔）

(2) 収蔵品の他機関への貸出件数

- ① 《金剛峯寺蔵 国宝「仏涅槃図」模写》  
2014-2016 (平 26~28) 年度模写 絹本着色 1 幅  
龍谷大学龍谷ミュージアム 2022 年度春季特別展「ブッダのお弟子さん—教えをつなぐ物語—」に展示するため
- ② 宇城翔子 《京都文化博物館所蔵「誓願寺門前屏風」想定復元模写》  
2017 年 紙本着色 170.9×188. cm  
公益法人芳泉文化財団 10 周年記念特別展『模写の近代 模写の現代』（主催：東京藝術大学、芳泉文化財団）に展示するため
- ③ 岩田明子 《奈良国立博物館所蔵「大仏頂曼荼羅図」想定復元模写》  
2018 年 絹本着色 127.0×88.5cm (作品寸法)  
公益法人芳泉文化財団 10 周年記念特別展『模写の近代 模写の現代』（主催：東京藝術大学、芳泉文化財団）に展示するため
- ④ 横山大観 《雲去来》  
大正 6 年 (1917 年) 絹本墨画 六曲一隻屏風 166.0×368.4cm (170.5×373cm)  
名都美術館 2022 年開催『<特別展> 開館 35 周年記念 横山大観 一心によりて筆生ず—』に展示するため
- ⑤ 戸谷成雄《「器 (III) 1972(昭 47)年》  
長野県立美術館及び埼玉県立近代美術館で開催される「戸谷成雄彫刻」展での展示のため

## 23. サテライトギャラリー SA・KURA

【芸術大学】

(概要)

名古屋栄のサテライトギャラリー閉廊から1年9ヶ月を経て、2019年6月に栄北（オアシス21至近）に「サテライトギャラリーSA・KURA」を開廊しました。ギャラリーの名称には、大学の研究や教育成果をアピールする場所として、県民や市民の記憶に残り親しみやすい名称がふさわしいとの考えや、地名である東桜の一文字を取り入れることで、地域や社会と連携する意図を込めています。

S=Satellite・サテライト

A=Aichi Art・愛知アート・AUA

KURA=蔵／研究や資料などの宝物を、ここから発信する拠点としての蔵

SA・KURA=東桜町の地名

2022年度のサテライトギャラリーSA・KURAは、全14の展覧会を開催しました。

<2022年度実施の展覧会一覧>

展示名称	日数	入場者数	一日平均
収蔵品展Ⅲ「±30：軌跡の刻印」	24	240	10
KANDA TSUNEMI 光景 — 時空は飛翔する	14	202	14
「水平性   水平線」展 キム・ミョンボム／ジルヴィナス・ケンピナス／村尾里奈	14	168	12
浅井真理子 BLIND GARDEN	14	138	10
松本崇宏 Unplugged	15	205	14
Halldora Magnúsdóttir 「Reproverse」 (アーティスト・イン・レジデンス)	4	78	20
関口敦仁退任記念展	27	280	10
トラベル・ノート / シュトゥットガルト⇔愛知 2021-2022 (アーティスト・イン・レジデンス)	13	122	9
磯田尚男追悼展 「デザインは手からはじまる」	14	289	21
追悼 設楽知昭 Exhibition to remember SHITARA	14	313	22
米林雄一展／李允碩展 Solo Exhibitions by Yuichi Yonebayashi and Lee Yoon Seok	14	167	12
博士学位論文・作品展	6	60	10
～惑星の姿見の中に～ In the Mirrors of Planets	14	164	12
合計	202	2,526	13

## 24. 芸術大学におけるブランディング・知名度向上に向けた取組

【芸術大学】

### (概 要)

芸大のブランドや知名度のより一層の向上を目指すため、大学WebサイトやSNS等の情報発信ツールの充実を図り、育研究、地域・社会貢献活動などに関する情報発信・広報を行っています。

### (1) 大学Webサイトリニューアル

リニューアル後のウェブサイトは2023年3月31日に公開しました。グローバルメニューを5項目にし、第一階層から順番にウェブページが回遊できるよう、情報を探しやすいページ構成やスマートフォンやタブレット端末からもより利用しやすいサイトデザインに全面的に刷新しています。各専攻で管理している専攻サイトや各施設等のWebサイトも本学Webサイトへ統合しました。

ウェブサイトのデザインは、デザイン専攻春田登紀雄准教授が監修し、吉村順三氏が設計した本学のキャンパスをイメージし、新しいホームページにおける特徴的な蘇芳色(すおういろ)の枠は、本学の校舎の窓をモチーフとしています。

他大学等と差別化し、最新のデザインで本学らしいWebサイトの構築を目指し、リニューアル作業を行いました。

### (2) 大学Webサイト・SNSによる情報発信

#### ・大学Webサイト

掲載内容：大学の概要（専攻・コース案内、教員情報など）、  
大学の主要行事（入学式・卒業式など）、  
在学生・卒業生や教員の受賞・活動状況、展覧会・演奏会の案内など  
アクセス件数：531,658件（2021年度：528,859件）

#### ・Facebook

掲載内容：大学の主要行事（入学式・卒業式など）、  
在学生・卒業生や教員の受賞・活動状況、展覧会・演奏会の案内など

※2022年9月よりFacebook仕様変更のため、仕様変更日から分けて表記

2022年4月～2022年8月 閲覧：219,202件、リーチ数95,944人、

2022年9月～2023年3月 アクセス数6,325件、リーチ数68,718人

（2021年度のアクセス数：469,772件）

#### ・Twitter（2020年度より公式SNSとして運用開始）

掲載内容：主催イベント、在学生、卒業生活躍情報など

アクセス件数：510,310件（2021年度611,557件）



### (3) BIGサインプロジェクト

ジブリパークの開園に合わせ、県内外からの来訪者に対する本学のプレゼンスを向上させるため、ジブリパークへ続く県道から視認できる芸大敷地に、大型看板を設置しました。

設置にあたっては、副学長を中心として「BIGサインプロジェクトチーム」を組成し、大型看板の設置場所の選定やコンセプト決定を行いました。また、設置場所は、県道「力石名古屋線」（通称“グリーンロード”）から視認のできる芸大敷地としました。

### (4) クラウドファンディング（地形劇場）

本学の緑豊かな自然の中にあるキャンパスの特性を活かし、屋外で思いっきり音を出し、自由にのびのびと音を響かせることができる屋外ステージとして「地形劇場」を建設しました。

地形劇場の観覧席整備にあたっては、目標金額 300 万円でクラウドファンディングを実施し、154 名（企業・団体含む）から 780 万円の寄付があり、目標金額を大きく上回る寄附を集めることができました。また、クラウドファンディングを実施するにあたり、記者発表を行うことで新聞に記事が掲載される等、地形劇場を広く社会、地域に PR することができました。

## 25. トップマネジメントによる予算配分

【法人運営】

(概要)

令和5年度予算において、収入は大きな変化がない一方で、支出については光熱費の高騰や人件費の上昇の影響が大きく、各事業の予算を大幅に減らさざるを得ない状況となった。その影響を受け、理事長・学長の判断により執行が可能な「トップマネジメントによる事業費予算」は令和4年度と比べ約40%に減少した。

[トップマネジメントによる事業費予算]

14,285千円（業務費総額（人件費除く）1,874,116千円の0.76%

県大・・・ 0千円

芸大・・・ 2,355千円（学長特別研究費1,350千円、大学裁量経費1,005千円）

法人・・・11,930千円（理事長裁量経費11,930千円）

2023年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,874,116	14,285	0.76%	1,168,335	0	527,088	2,355	178,693	11,930

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2022年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,887,242	35,985	1.91%	1,180,761	4,263	519,116	1,500	187,365	30,222

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2021年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,861,215	19,132	1.03%	1,161,710	12,435	502,807	4,060	196,698	2,637

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2020年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,866,844	16,626	0.89%	1,169,886	6,708	495,275	1,675	201,683	8,243

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2019年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
2,091,087	15,774	0.75%	1,237,977	7,396	604,861	1,350	248,249	7,028

※・・・トップマネジメントによる予算枠

[2022年度のトップマネジメント事業]

(1) 県政150周年記念連携事業

- ・『県大アゲイン』（県大）7月開催
- ・『県大 Academic デイ（学外向け）』（県大）2月開催
- ・日タイ合同シンポジウム『自然災害における保健・看護職の活動と今後の課題』（県大）9月開催
- ・県政150周年と愛知県立大学 ―愛知県の歴史と大学の足跡―（県大）11月開催
- ・足元を見つめ、世界を想う ―私たち一人ひとりの想像力と可能性（県大）12月開催

- ・「A-A-A スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリの DX」(法人) 10月開催

(2) リニモ藤が丘駅デジタルサイネージ事業

瀬戸信用金庫地域振興協力基金から助成金を獲得し、ジブリパークの開園に合わせた広告広報事業として、リニモ沿線8施設紹介動画を制作しました。企画・構成は芸大教員が担当し、撮影には両大学の学生も協力しました。動画はリニモ藤が丘駅デジタルサイネージにて放映されたほか、愛知県及び長久手市の公式Webサイト等に掲載されています。

## 26. 2大学による連携事業

【法人運営】

### (1) 2大学による連携

- ・本法人の先進的な2大学連携研究であり、かつ科学研究費助成事業基盤研究Aに採択された「データサイエンスによる紙の道の解明」が、今年度より研究を開始しました(2026年度まで継続)。
- ・両大学の学生を対象として、アントレプレナーシップ教育(起業家精神育成のための教育)分野で世界ランキングNo.1を25年間維持する米国バブソン大学の山川恭弘准教授による特別集中授業を7月に実施しました。
- ・ジブリパークの開園記念事業として、県大長久手キャンパス南門周辺の整備事業を開始した。南門及びその周辺エリアのデザイン案を県大の学生・教職員・卒業生を対象に公募して審査し、採用した案を芸大美術学部の教員と協議・調整の上、最終デザインを作成しました。

### (2) 2大学連携推進会議

構成員(10名): 理事長、事務局長、次長、法人事務部門長、学長(2名)、副学長(3名)、  
大学事務部門長(2名)

2022年度開催状況	議事等
第1回(2022.9.2)	2021年度計画の実施状況及び2022年度の予定について
第2回(2023.3.27)	2022年度計画の実施状況について

### (3) 2大学連携に関する窓口

両大学教員のマッチングの仕組みとして、2大学連携に関する研究、その他全般についての相談窓口を次のとおり設置し、周知しています。

	窓 口
県立大学	研究支援・地域連携課 (研究支援担当)
芸術大学	芸術情報・広報課 (研究支援担当)
法人事務局	企画財務課 (2大学連携全般)

## 27. 県との連携事業

【法人運営】

### (概要)

愛知県との連携促進に向け、県からの相談等に基づき、県との連携事業を実施しています。

### (内容)

#### (1) 愛知県農業総合試験場との連携

両大学と愛知県農業総合試験場が、最新の取り組み状況を共有し更なるスタートアップ創出に向けた議論を深めるため「A-A-A スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリ DX」を11月に開催しました。

#### (2) 愛知県経済産業局革新事業創造部スタートアップ推進課との連携

フランスの高等教育機関からスタートアップやイノベーションに関する研究や活動を行っている研究者等を招聘し、愛知県経済産業局革新事業創造部スタートアップ推進課と連携してスタートアップ国際シンポジウムを12月に開催しました。

#### (3) 県政150周年記念事業

- ・『県大アゲイン』（県大）7月開催
- ・『県大 Academic デイ（学外向け）』（県大）2月開催
- ・日タイ合同シンポジウム『自然災害における保健・看護職の活動と今後の課題』（県大）9月開催
- ・県政150周年と愛知県立大学 ―愛知県の歴史と大学の足跡―（県大）11月開催
- ・足元を見つめ、世界を想う ―私たち一人ひとりの想像力と可能性（県大）12月開催
- ・「A-A-A スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリ DX」（法人）11月開催

## 28. 事務職員の育成（海外・他機関派遣研修）

【法人運営】

### （概要）

短期海外研修は、職員に海外研修の機会を提供し、国際的な資質や見識を高め、国際交流関係業務の運営や本法人研究者の国際的教育研究活動の支援を円滑に行うことができる事務職員の育成を目的としています。

他機関派遣研修は、法人の将来を担う人材の計画的かつ効果的な育成を図るため、法人以外での実務を経験させ、外部で学ぶ刺激を得ることで当該職員の視野の拡大を図るとともに、外部職員の交流受入を行うことにより、組織の活性化を図っていきます。

### （内容）

#### （1）短期海外研修

##### ① 対象

本研修に参加したことがない事務職員（プロパー職員）のうち、本研修に対する参加意欲があり、派遣することが適当であると所属する課の課長が認め推薦した者。

（ただし、研修内容によっては語学力等の要件を追加する。）

##### ② 研修の種類

- ・名古屋大学事務職員の短期海外研修に参加し、名古屋大学の学術研究拠点及びそれに準ずる拠点、または教育研究機関を訪問する。
- ・本法人で実施する国際交流関係業務に同行し、教育、研究支援、国際交流等の推進に必要な知識を習得するために業務の補助を行う。

#### （2）他機関派遣

##### ① 対象

過去に他機関へ研修生等として派遣されたことがない事務職員のうち、原則、当該年度末時点の年齢が35歳以下の主事・主任級職員であり、現所属における勤務年数が今年度末時点で1年9か月以上である者

##### ② 研修の種類

- ・文部科学省実務研修  
実務研修生として勤務し、配属先が作成する研修計画に基づき、業務に従事する。
- ・名古屋大学派遣研修  
研修として出向し、大学運営の実務を習得させるとともに、大学間の情報交換及び人的交流を行う。
- ・愛知県派遣研修  
研修生として出向し、地方行政の実務を習得させるとともに、愛知県との情報交換及び人的交流を行う。
- ・一般社団法人公立大学協会派遣研修

研修として出向し、公立大学及び国の高等教育制度を習得させるとともに、大学及び文部科学省等との人的交流を行う。

(3) 各研修の実績

【短期海外派遣】

	年度	所属	課	職級	研修先	期間
1	2015	県立大学	経理課	主事	タイ	H27. 11. 3～8
2		県立大学	学生支援課	主事	モンゴル	H27. 9. 12～17
3		県立大学	学務課	主任	中国	H27. 7. 18～24
4		法人事務局	人事課	主任	同上	同上
5	2016	県立大学	県大総務課	主事	ベトナム	H28. 11. 7～11
6		県立芸術大学	芸術情報・広報課	主任	カンボジア	H28. 11. 21～25
7	2017	法人事務局	情報課	主事	タイ	H29. 11. 13～17
8		法人事務局	経営企画課	主事	シンガポール	H30. 3. 24～29
9	2018	県立大学	学務課	主事	スイス	H30. 9. 10～16
10	2019	県立大学	研究支援・地域連携課	主任	タイ	R1. 9. 24～29
11		県立芸術大学	学生支援課	主事	米国	R1. 11. 17～22
12	2022	法人事務局	人事課	主事	米国	R5. 1. 24～29

※所属・職級は派遣当時のもの

※退職者は除く

【他機関派遣】

	年度	派遣前所属	課	職級	研修先	期間
1	2016	県立大学	経理課	主事	名古屋大学	H28. 4. 1～H30. 3. 31
2	2017	県立大学	守山学務課	主任	愛知県	H29. 4. 1～H30. 3. 31
3	2018	法人事務局	総務課	主事	文部科学省	H30. 4. 1～H31. 3. 31
4		法人事務局	契約課	主事	名古屋大学	H30. 7. 1～R2. 7. 31
5	2020	県立芸術大学	芸術情報・広報課	主事	名古屋大学	R2. 8. 1～R4. 6. 30
6	2021	法人事務局	人事課	主査	愛知県	R3. 4. 1～R4. 3. 31
7		県立大学	研究支援・地域連携課	課長補佐	公立大学協会	R3. 4. 1～R5. 3. 31
8	2022	県立大学	戦略企画・広報室	主事	愛知県	R4. 4. 1～R4. 10. 31
9		法人事務局	人事課	主事	文部科学省	R4. 4. 1～R5. 3. 31
10		県立大学	入試課	主事	名古屋大学	R4. 7. 1～

※職級は派遣当時のもの

※退職者は除く

職員現員数のうち、派遣研修経験者（退職者を除く）の割合

研修実績（2023年3月時点）	合計	職員数※	割合
	22	75	29.3%

※3月時点のプロパー現員数（育休・休職者除く）

**【2023 年度の予定】**

- ・ 短期海外研修…2023 年度 5 月現在、派遣予定は未定。
- ・ 他機関派遣…東海国立大学機構（名古屋大学）へ派遣（1 名、2022 年 7 月～2 年間）



## 29. コロナ対策本部会議

【法人運営】

(概要)

### (1) コロナ対策本部会議

新型コロナウイルス感染症対策として、講義や実技等における感染予防対策、学生への支援等、定期的な情報共有及び具体的な支援策を実施するため、県大・芸大・法人の幹部職員により設置  
(2020年6月～)

年度	実施回数
2020年度	17回
2021年度	21回
2022年度	8回

### (2) 主な支援策

《2020年度》

#### ① 学生緊急支援金の支給

対象：生活に困窮している学生や家計支援者の収入減等により新たに経済的支援が必要となった学生

内容：一人5万円を支給（県大生203名、芸大生112名に対し支給）

#### ② 学生緊急支援基金の設立

自宅外から通学する経済的に困窮している学生に対して、寄附総額に応じた支援金を支給  
対象：下記の要件の全てにあてはまる者

- ・自宅外から通学している学生
- ・経済的に困窮している学生
- ・「学生緊急支援金（5万円）」を受けていないこと

内容：一人当たり5万円を支給（県大生267名、芸大生88名に対し）

基金への寄附金額 24,881千円

#### 【学生緊急支援基金】

##### 1 支援の対象者及び内容

自宅外から通学する経済的に困窮している学生に対して、寄附総額に応じた支援金の支給を行う。

2 募集期間 2020年5月29日（金）から2020年12月31日（木）まで

3 寄附依頼対象者 基金の趣旨にご賛同される方（現職、OB、一般寄附者）

4 寄附金額（何口でも可）

個人 一口 5,000円

法人 一口10,000円

5 寄附の方法 インターネット（クレジットカード決済）又は振込

6 寄附者への返礼

ホームページへの寄附者名の掲載、大学主催イベントへの招待、感謝状贈呈等

- ③ 生協キャンパスペイへのチャージ補助  
 日本学生支援機構の補助制度を活用し、大学生協キャンパスペイ（\*）へのチャージ支給を実施（\*） I C 学生証に搭載されたキャッシュレスシステム  
 ・ 県大：学部 1 年生を対象に 1,500 円を補助（576 人に補助（計 864,000 円））  
 ・ 芸大：学部・大学院の正規生を対象に 800 円を補助  
 （492 人に補助（計 393,600 円））

《2021 年度》

- ① 学生生活支援金の支給  
 対象：2021 年度新生で経済的に困窮している学生  
 内容：一人 5 万円の支給を行う。（県大 42 名、芸大 40 名に支給）
- ② 長久手市からの助成金（各大学 100 万円）を活用した、自宅外から通学する経済的に困窮している学生への食糧支援を実施（一人当たり 3,000 円相当の食料品及び長久手市より提供のお米を申請者 199 名に支給（県大：80 名、芸大：119 名））
- ③ 日本学生支援機構の新型コロナウイルス感染症対策助成事業の助成を活用した、生協の電子マネー（キャンパスペイ）へのチャージ補助を実施  
 ・ 県大：学部 1 年生を対象に 1,500 円を補助（716 人に補助（計 1,074,000 円））  
 ・ 芸大：学部・大学院の正規生を対象に 2,000 円を補助  
 （698 人に補助（計 1,396,000 円））
- ④ 長久手市からの助成金及び学生支援寄附金の残額を活用した、生協の電子マネー（キャンパスペイ）へのチャージ補助を実施  
 ・ 県大：学部 2～4 年生及び大学院生を対象に 1,500 円を補助  
 （1,933 人に補助（計 2,899,500 円））  
 ・ 芸大：学部・大学院の正規生を対象に 1,300 円を補助。  
 （576 人に補助（計 748,800 円））
- ⑤ ワクチンの職域接種について  
 ・ 期間 第 1 回 2021 年 8 月 23 日（月）～ 8 月 27 日（金）  
 第 2 回 2021 年 9 月 27 日（月）～ 10 月 1 日（金）  
 ・ 場所 県立大学長久手キャンパス  
 ・ 接種者数

		第 1 回	第 2 回
県立大学学生		1,036 人	1,029 人
県立芸術大学学生		274 人	270 人
教職員（県大・芸大・法人含む）		126 人	124 人
学内関係者（警備・保守担当業者職員）		4 人	4 人
地域貢献枠	リニモ	29 人	29 人
	愛知環状鉄道	89 人	89 人

	名古屋商科大学	40人	40人
	科学技術交流財団	5人	5人
	愛・地球博記念公園事務所	17人	17人
	(地域貢献枠計)	(180人)	(180人)
	合 計	1,620人	1,607人

《2022年度》

① ワクチンの職域接種（追加接種）について

- ・期間 第3回 2022年4月18日（月）～ 5月17日（火）
- ・場所 名古屋大学 豊田講堂
- ・接種者数

	第3回
県立大学学生	124人
県立芸術大学学生	36人
教職員（県大・芸大・法人含む）	27人
合 計	187人

② 学生生活支援金の支給

- ・対象：2022年度新入生で経済的に困窮している学生
- ・内容：一人5万円の支給を行う。（県大71名に支給）

③ 日本学生支援機構の新型コロナウイルス感染症対策助成事業の助成を活用した、生協の電子マネー（キャンパスペイ）へのチャージ補助を実施

- ・県大：全学部生および大学院生を対象に2,400円を補助  
(2,878人に補助（計6,907,200円）)
- ・芸大：日本学生支援機構の給付奨学金受給者を対象に3,000円を補助  
(257名に補助（計771,000円）)